

令和7年第3回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

令和7年6月13日（金曜日）

議事日程第2号

令和7年6月13日（金曜日）

〈午前10時00分 開議〉

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 議案第50号及び同第51号
- 日程第3 議案第52号
- 日程第4 一般質問

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 議案第50号及び同第51号
- 日程第3 議案第52号
- 日程第4 一般質問

〈応招議員〉 17名

〈出席議員〉 17名

1番	池田七菜君	2番	松田徳彦君
4番	渡辺栄一君	5番	関原奈津美君
6番	利根川正君	7番	田中立一君
8番	和泉克彦君	9番	近藤新二君
10番	田原洋子君	11番	宮島宏君
12番	東野恭行君	13番	阿部裕和君
14番	古畑浩一君	15番	田原実君
16番	中村実君	17番	保坂悟君
18番	松尾徹郎君		

〈欠席議員〉 1名

3番 加藤康太郎君

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市	長	久保田	郁夫	君	副	市	長	井川	賢一	君
総務部	長	嶋田	猛	君	市民部	長	山口	和美	君	
産業部	長	猪又	悦朗	君	総務課	長	磯貝	恭子	君	
企画定住課	長	大西	学	君	財政課	長	塚田	修身	君	
能生事務所	長	高野	一夫	君	青海事務所	長	仲谷	充史	君	
市民課	長	小竹	貴志	君	環境生活課	長	木島	美和子	君	
福祉事務所	長	山岸	千奈美	君	健康増進課	長	林	壮一	君	
商工観光課	長	山崎	和俊	君	農林水産課	長	星野	剛正	君	
建設課	長	長崎	英昭	君	都市政策課	長	内山	俊洋	君	
会計管理者		山田	康弘	君	ガス水道局長		陶山	智	君	
会計課長兼										
消防	長	竹田	健一	君	消防次長		中村	淳一	君	
教育	長	鶴本	修一	君	教育次長		山本	喜八郎	君	
こども課	長	室橋	淳次	君	こども教育課	長	小川	豊雄	君	
生涯学習課	長	川合	三喜八	君	文化振興課	長	嵐口	守	君	
監査委員事務局	長	川原	隆行	君						

〈事務局出席職員〉

局	長	磯貝	直	君	次	長	上野	一樹	君
係	長	川原	卓巳	君					

〈午前10時00分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、加藤康太郎議員であります。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（古畑浩一君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、４番、渡辺栄一議員、１１番、宮島 宏議員、両名を指名いたします。

次の日程に入ります前に、昨日６月１２日に議会運営委員会が開かれておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議会運営委員会委員長。〔１２番 東野恭行君登壇〕

○１２番（東野恭行君）

おはようございます。

昨日６月１２日に議会運営委員会が開催されておりますので、その経過と結果について、ご報告いたします。

追加議案について、ご説明いたします。

追加議案は、お手元配付の議案書のとおり３件あり、一般質問開始前に日程を追加し、議案第５０号及び同第５１号の２件については総務文教常任委員会に、議案第５２号については建設産業常任委員会に付託の上、審査いただくことで意見の一致を見ております。

ほかに、議会運営に関する協議事項に関し、タブレットの更新、２常任委員会制、ハラスメント防止対策等について協議、スケジュールに関して議論が交わされております。

以上で、議会運営委員会委員長報告を終わります。

○議長（古畑浩一君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり進めることにいたしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

ご異議なしと認めます。

よって、ただいまの委員長報告のとおり進めることと決しました。

日程第２．議案第５０号及び同第５１号

○議長（古畑浩一君）

日程第２、議案第５０号及び同第５１号を一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

久保田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

それでは、ご説明申し上げます。

議案第50号は、糸魚川市市民栄誉賞条例の制定についてでありまして、広く市民に称賛され、市民に夢と希望を与えるとともに、本市の名声を高めるために市民栄誉賞を贈呈するため、新たに条例を制定いたしたいものであります。

議案第51号は、財産の取得についてでありまして、老朽化した車両を更新し、消防体制の充実を図るため、災害対応特殊消防ポンプ自動車1台を購入いたしたいものであります。

契約金額は7,238万円で、契約の相手方は、高坂防災株式会社であります。

以上であります。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（古畑浩一君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

〈午前10時04分 休憩〉

〈午前10時04分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております本案については、総務文教常任委員会に付託いたします。

日程第3．議案第52号

○議長（古畑浩一君）

日程第3、議案第52号、令和7年度糸魚川市一般会計予算（第3号）を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

久保田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ご説明申し上げます。

議案第５２号は、令和７年度一般会計補正予算（第３号）でありまして、歳入歳出それぞれ５１３万９,０００円を追加いたしたいものであります。

歳出は、８款土木費、住宅リフォーム支援事業（物価高騰対策）の追加であります。

次に、歳入につきましては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当したほか、所要の一般財源につきましては、前年度繰越金を充当いたしました。

以上であります。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（古畑浩一君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております本案につきましては、建設産業常任委員会に付託いたします。

日程第４．一般質問

○議長（古畑浩一君）

日程第４、一般質問を行います。

発言の通告者は１６人ですが、議事の都合により、本日４人、１６日４人、１７日４人、１８日４人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、１人３０分であります。所定の時間内に終わるよう、質問答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は、通告の範囲内にとどめるようにご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。〔１６番 中村 実君登壇〕

○１６番（中村 実君）

おはようございます。創生クラブの中村でございます。

久保田市長におかれましては、初議会、初一般質問ということで、私のほうから第１番目の質問をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、「相撲のまち糸魚川」の展望について伺います。

横綱大の里、中村泰輝君は、７歳で相撲を始め、中学進学を機に、糸魚川市の市立能生中学校、県立海洋高校に相撲留学し、数々の活躍や優勝を重ね、進学先である日本体育大学では、学生横綱

やアマチュア横綱2連覇を果たすなどの実績を残しました。

大学卒業後は、大相撲の世界で夢をかなえるために選んだ部屋は、元横綱稀勢の里の二所ノ関部屋で、その後の活躍は言うまでもなく、日本人横綱としては師匠の稀勢の里以来、8年ぶりという快挙を成し遂げました。

引き続きけがもなく記録を重ねていくことにより、今以上に出身地である石川県津幡町と糸魚川市の明るい話題となり、当市の知名度も高まるものと思います。

また、大の里以外にも海洋高校の卒業力士が多くいることから、今後の活躍が楽しみです。ついては、各種課題もあると思いますが、今後このような盛り上がりを活用した「相撲のまち糸魚川」について、次の点を伺います。

- (1) 津幡町との交流や連携の予定はあるのか伺います。
- (2) 相撲道場の新設や既存土俵の整備拡充の計画はあるのか伺います。
- (3) 相撲を活用したまちおこしについての展望はどうか。
- (4) 市立能生中学校での相撲留学再開の可能性はあるのか。
- (5) 市は、「相撲のまち糸魚川後援会」とどのように関わっていくのか。

以上で、1回目の質問を終わります。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

改めて、おはようございます。よろしくお願いいたします。

中村議員の質問にお答えいたします。

1点目につきましては、津幡町とは相撲を通じた交流や連携を図りたいと考えております。

2点目につきましては、関係団体から、施設整備を求める声があることは承知しておりますが、今後、意見交換してまいります。

また、既存の土俵についても、関係団体と意見交換してまいります。

3点目につきましては、各種イベント開催において、相撲を最大限生かしてPRしてまいります。

4点目につきましては、中学生単独での受入れ再開は、今のところ考えてはおりません。

5点目につきましては、組織構成や具体的な事業、活動内容をお聞きする中で、相撲を通じた地域の活性化につながるよう取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

それでは、再質問を行います。

今回の一般質問は、糸魚川市で6年間育った中村泰輝君が、相撲界では神と呼ばれる横綱になったということで、海洋高校時代を校長として見てこられた久保田市長に、これからの取組を何点か

伺いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、（５）で質問いたしております相撲のまち糸魚川、これはまだ立ち上がっていませんので、言える範囲で、まだ分からないと思いますので答弁していただければいいかなというふうに思っております。

今ほどの（１）の津幡町、これは考えているということですが、今回の大の里が優勝したということで一番盛り上がったのは、当然、地元の津幡町だと思うんですね。その次には糸魚川市、当市においても横綱昇進に合わせてアドバルーンを上げていただいたり、花火を上げていただいたということで、市民は大変喜んでおりました。

先ほど市長の答弁では、今後、交流を考えているということでありましたが、糸魚川市は、姉妹都市としては塩尻市、それから能生町時代からの流れで、友好都市として北海道の日高町や岩手県の葛巻町、こういう交流があるわけですね。今後、交流を考えていくということですが、単なるそういう簡単な交流で終わるのか、例えばこういう友好都市のようなことに進んでいくのか、その辺のお考えを伺いたいと思います。

○議長（古畑浩一君）

ただいま中村議員の発言の中で、親愛の情だと思うんですが、中村泰輝君と言ってますね。できましたらね、尊敬するんであるならば「さん」で、ひとつよろしくお願いいたしますと思います。

○１６番（中村 実君）

分かりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ただいま津幡町との関係ということで、まず最初に、そこについてはお答えしたいと思います。

５月３０日に津幡町の町長さんとようやく連絡が取れまして、お電話でお祝いのメッセージを差し上げました。その中において、今後、糸魚川市との関係づくりについて、お互いに意見交換をしたいという旨の申入れをしましたので、それ以降については、また引き続き意見交換をしてまいりたいと思っております。

また、やっぱりその誕生したという出生地ということのものも大きいと思いますので、まず、津幡町さんの動向を見ながら、糸魚川市としてどのような対応をすればいいのか、そこも含めて考えていきたいと思っております。

また、他の市町村とのこれからの関係づくりであります。当然今までそういう友好都市、また知音都市ですか、そういう部分で関係のあったところについては、改めて、全国市長会、北信越市長会等でもご挨拶を申し上げました。

さらに、また関係づくりという都市、市町村については、私もこれまでいろんなところを巡ってきた中において、関係づくりを深めたいという市町村もございますので、そことの関係づくりも含めて、糸魚川の交流人口、関係人口の増加に努めてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

先ほど申し訳ありませんでした。「君」だとちょっと駄目ですよ、これだけの人になったので。中村泰輝さんということで、よろしく願いいたします。

ありがとうございます。今後どういうお付き合いになるか分かりませんが、私も津幡町ちょっと調べさせていただきましたら、結構コンパクトな町だということなんですが、教育関係、結構一生懸命なんですよ。だから、相撲だけじゃなくて、いろんな取組もあると思いますので、ぜひそういうところもお付き合いできればなというふうに思っております。

次の質問に入るんですが、大変質問しづらくなってきました。ということは、今ほどの議案第50号、市民栄誉賞、実は市民栄誉賞を与えるべきじゃないのかという質問に入る予定だったんですけど、今日の朝の新聞読んだんですけど、新聞にもここに載っていました。もう既に動いていたんでいるんだなということで大変喜んでおります。これもあんまり聞くと事前審査になってしまうので、1点だけ、じゃ聞かせてください。

これいつ頃からどうだという話が出たのかだけ伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

市民栄誉賞につきましては、当時、5月場所で優勝した段階で横綱昇進ということが、5月28日に正式発表されるということを受けまして、事前にそういう活躍して、糸魚川市の名前を非常に広めていただいたという功績のある人たち、過去の人たちも含めて、こういう賞の該当があったのかという部分について調べていただいた中で、そういうものがないのであれば、ひとつこれからの将来の子供たち、また、市民のためにもつくったほうがいいんじゃないでしょうかという部分で、当時、事務方のほうにもお話をさせていただいて、対応したということでございます。

○議長（古畑浩一君）

その前に、中村議員に申し上げますが、今のこの件につきましては事前審査に当たりませんので、遠慮なくご質問していただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

あんまり深入りするとまずいかなということで、これは栄誉賞に当たるということでね、やっていただけるんだろうというふうに思いますし、石川県でもね、県民栄誉賞を29日ですか、頃に頂けるということで、大変全国的に動きも出てきているなというふうに思っていますので大変喜んでいますが、今後、糸魚川市で横綱がまた出ていただければいいんですけどね、なかなか難しい業界なので、今後難しいと思いますが、ぜひ今回は、栄誉賞を与えていただければなというふうに

思っております。よろしく申し上げます。

次に、相撲道場について伺いますが、今ほど施設整備は考えていないと。これから考えていくのか。過去に、能生に相撲道場を建てたいということで、米田市長宛てに要望書を出したことがあります。その当時は、久保田市長は多分、校長先生をやられていたという時期なので、この辺の要望が出たというのは相撲関係でご存じだったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

当時、私も現職で海洋高校の校長やっていたときに、そういうお話を伺ったということは承知しております。

さらに相撲道場につきましては、現在、学校の敷地内にあるものですから、県教育委員会の管轄ということで、これからの相撲道場の対応については、県教育委員会との話の中で進めていたように記憶しております。今後、いろんな意味で、この件については、まずは意見交換をしていかないといけないということと、組織的にもまだ明確な組織立てという部分には至っておりませんので、これについては少し様子を見ながら対応させていただければと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

これは、市長がまだ海洋高校のときだったということで、その当時は米田市長だったわけですが、副市長は織田さん、織田副市長、もう既に亡くなられてるんで、当時を知る人がもういないわけですが。この辺の内容は、市とすれば、井川副市長とか蘆本教育長あたりが、ある程度の年配なわけですから、その辺はどちらかこの要望書ですがね、これ要望書なんです。これご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

要望書については、承知いたしております。

ただ、私、教育長在職時代、また今副市長を務めておりますけども、この6年半ぐらいの間に直接要望を受けたことがないものですから、現時点での動きについては承知しておりません。

しかしながら、今ほど市長が答弁申し上げましたとおり、関係団体との意見交換はこれからさせていただくことになろうかというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

私の名前が上がりましたので、その要望書の件について承知しているかということの確認だと思います。私もずっと記憶をたどってるんですけども、学校現場に勤務しているときぐらいだと思います。退職した直後なのか、そこら辺りのことなので、その要望書の具体的な内容についても、私は承知しておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

この要望書は、市長宛てに、相撲のまち糸魚川、相撲道場建設についてということで要望をさせていただいております。これ平成28年8月2日付で出されているんですが、糸魚川相撲連盟会長、田海哲也さんと紹介議員ということで、もう今辞められましたけど、当時の倉又議員、そして在職してる松尾議員と私の連名で、これは出させていただいております。

これは、もう9年ほどたってるんですが、出してからほとんど動きがないんですよ。大変な事業だということでね、そんなに簡単にできる事業じゃなかったんで進まなかったと思うんですが、要望書の内容としては、ちょっと抜粋してですが、読ませていただきたいと思います。

相撲道場の建設について。

海洋高校の相撲を核として、長い歴史と伝統を持った国技である相撲の振興を通じ、心身ともに健全な青少年、社会人の育成を目指し、幼稚園、保育園、小学校の相撲教室の開催を通し、小さいときから相撲に親しみ、心身を鍛え、日本一の子供づくりを目指した糸魚川市の子ども一貫教育に励んでいます。相撲道場は、糸魚川市の相撲の拠点として、さらに全国大会の誘致と併せ、相撲の盛んな糸魚川市を全国に発信できるものと考えます。この趣旨をご理解いただき、建設に取り組んでいただきたいというような内容であります。

それから、もう一点、これが相撲のまち糸魚川の現場の図面になります。ちょっと大きいものなんですけど、これまた後で見てもらえばいいかと思うんですが。これは、あの頃は旧能生町の体育館を解体する頃だったんです。そのときに要望とすれば、旧体育館の跡地に建てていただきたいということだったんですが、現在の青空いちょうの家が建ってる、建てるという計画があったもんですから、そこでは駄目だということで、当時の織田副市長にお願いをして、どっかほかにもいい現地がないかということで探していただきました。当時の織田副市長は、海洋高校の近くのほうがいいんじゃないかと。そうすれば、海洋の生徒も利用できるし、相撲大会もそこでできることで、織田副市長は一生懸命、場所を探してくれて、私とも話をしていましたが、当時、改めて場所まで、ここがいいよという話あったんですけど、場所まで私、聞いてなかったんですよ。

ただ、この図面を見ますとね、大変大きい建物なんです。駐車場まで入ると約3,500平米、約1,000坪ぐらいの敷地が必要だということで、もしかしたら織田副市長は、この大きさを見ないで場所を決めたのかもしれませんが、これは300人規模の観覧席と小上がり、それか

らいろんな部屋がついておりますんで、これをする、今の現時点では材料費や人件費の高騰で、非常に建設は難しいというか、もうできる状態の建物ではないなというふうに思っていますが、久保田市長は、縮充ということを公約の一つに上げられて当選されたと思います。私個人だと、縮充は、人口減少が進む糸魚川市において、縮小を前提として生活の質を落とさず、向上させていくんだというような内容もあるんじゃないかなというふうに思っております。私も、この建物をちょっと縮小してもいいと思うんですよね。今後、糸魚川の活性化を見据えた、相撲のまち糸魚川をうたい文句にしていくわけですから、再度これを検討していただきたいと思うんですが、この図面をまた後で見ていただきますが、市長、改めていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

基本的に、公的な関係で施設を造るには、非常に厳しい問題があると思っておりますので、これにつきましては、民間主導で進めるべきだと、今はそういう認識でおります。

また当時、相撲道場が校地内にあるということで、当時困っていたのは、実を言うと寮のほうがかつていたというところでありまして、私が退職時に寮の増設を、グラウンドを少し削って、作っていただいたということ。それが当時、海洋高校としては、非常に優先事項が高かったものですから、その部分の敷地については、グラウンドを削って、寮を増設したということになります。

また、他の候補地については、今、現寮の向かい側にあるところ、これについて提案があったというふうに覚えておりますけれども、基本的に地滑り等の危険性のある場所ということで、公的な部分、また学校の敷地内を活用するにはちょっと非常に厳しいという見方をしておりました。

そういう部分において言えば、それ以降進めていただいております相撲道場の建設については、基本的にはペンディング中であるというふうに思っております。これからやっぱりそういう部分で機運の盛り上がり等も含めて、また、部活動の地域移行、また地域展開を含めていけば、それなりの対応できる、民間指導のできるようなことが前提になって意見交換をしなければいけないんじゃないかなというふうに思っております。

以上であります。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

建てる建てるはね、この先の話になると思いますので、ぜひ、取りあえず場所があるかどうかということも探さなきゃいけないんで、検討をまたしてみたいなというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

次に、3番目の相撲を活用した町おこしをどのように進めていくかということですが、大の里が横綱になったということで、大変糸魚川市も有名になったんじゃないかなというふうに思っております。

過去には、糸魚川も海洋高校もほとんどそんなに知られていなかったことでありますが、いろんな他県の大会のときに、行ったときに、これも久保田市長はご存じだと思うんですが、ほかの大会に行ったときに、アナウンサーが「能生（のう）」というふうに読めなくて、「のうせい」というふうに放送したと。それを田海監督は、それに対してクレームはつけなかったと。必ず有名になって、「能生（のう）」と読めるようにするんだということで心に強く収めたということ、本人から私も聞いたことがあります。

これで、大の里が横綱になったということで、多くの人たちは、糸魚川市、能生（のう）というふうに読める人が増えてきたのではないかなというふうに思いますが、ただ、まだ知名度もまだ低いと思いますので、今後また知名度を上げるために、相撲を活用してPRしていくということですが、どのようなPRの仕方をしていくのか。ただ、大の里がテレビに出たのを見て応援するだけなのか、何か糸魚川市としてPRの仕方ってのはあるのか、その辺を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

まず、今、中村議員からお話あったとおり、私自身も高校現場で部活動等を指導しておりまして、「いといがわ（糸魚川）」と読んでくれる人、他県に行きますと、「いとうおがわ」なんですね。また、「のう（能生）」が、「のうせい」と呼ばれたということを私自身も承知して、やっぱりという気持ちはありました。

ただ、今回、大相撲関係の部分での機運の盛り上がりというのは承知しているところであります。

先般、関西万博で、花角知事ともお話しさせていただいて、新潟県として非常に喜ばしいことであるというお言葉もいただきました。

そういう中で、海洋高校の相撲部も関西万博のほうに出向いて行って、アンコウのつるし切り、また、相撲イベントを行うなど、非常にそういう部分では、糸魚川、そしてヒスイという部分も大きく広まってきております。スモールステップを踏みながらということなんで、一気に何かをするわけではありませんけども、やはり相撲に関わる部分で言うと「食」、ちゃんことかという食の提供をインバウンド向けにする。また、市内でアンコウフェアとかいう中で、そういう部分を海洋高校の相撲部から、また、海洋高校の生徒から参加していただいて、そういう部分を広めていただくという部分、全国各地に海洋高校が出向いて、そういうイベントに行っておりますので、そういう中で、またそういうところからこちらに、いわゆる来る、引き込んでくるということ、を全庁挙げて、また、皆さんと協力しながら進めていければと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ただいま私の発言で、

感情的な言葉がありましたので、これについては訂正さ

せていただきたいと思います。失礼しました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

後で質問しようと思ったんですけど、今ほど万博の話も出ましたんで、夕方のテレビを見ていたら、知事と市長が並んで映っていて、その奥のほうに大の里の等身大の写真と、あれ白熊なんですかね、ちょっとよく見えなかったけど。白熊と2体、2つだと思うんですけど、大変PRになったなというふうに、ヒスイも当然出てましたし、そういったところでもね、相撲だけでもなくて、いろんな、ヒスイだとかそういうものも併せてやっていただきたいと思いますというふうに思いますが。

今日、万博、糸魚川が今日までなんですよね。今日が最終日。ちょこっと聞いたところによると、アンコウのつるし切りも海洋高校の生徒がやるんだという話を聞いていたんですが、つるし切りをした後に、当然アンコウ汁とかというのを振る舞うんだと思うんですけど、その辺は事実なんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

お答えいたします。

現在、新潟県催事のほうへ糸魚川市として出展をさせていただいております、ご指摘のように6月10日から13日、本日まで4日間を開催しております。食の暮らしの未来をテーマという催事になっておりまして、本日13日のイベントで、海洋高校の生徒が、アンコウのつるし切りを実践する予定です。

ただ、食のほうの提供は、現地の会場の規制でできないことになっておりますので、今回は、つるし切りのみのイベントということになります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

すいません、課長、課長も映ってました。

つるし切りだけでも相当のPRになると思うんですよね。やはり大きく相撲のほうで、横綱が糸魚川なんだということをPRしながら、糸魚川を調べたときにそういう食文化があるんだな。自然が豊かなんだなというところも今後、PRしていただければなというふうに思っております。

それから、この相撲をPRしてくということになると、糸魚川の能生中学校、海洋高校というのは、既にもう皆さんご存じだというふうに思うんですが、市内でもあんまり知られていないのは、木浦保育園、これは昭和60年から年少、年中、年長に分かれて、男女関係なく、全員で年3回、こども相撲を開催しているということなんですよ。この保育園では、長きにわたって相撲教育を

続けてきたということですが、こういった昭和60年から続けてきた相撲の取組、これは教育関係になるのかな、教育長いかがですか、ご存じでしたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

保育園の園児が相撲をしているというような部分のことにつきましては、直接、参加したことは、私自身、今までございませんでした。

ただ、新聞報道等で取組をしているという、こんな活動をやっているというようなことについては、何回か記事を目にしたことがございます。園児が、小さな子供たちが一生懸命取り組んで、全身を使いながら一生懸命戦っているというような部分については、非常に好ましいなというようなことも思いますし、そこに含まれている教育的な価値等も大変大きなものがあるんだろうというふうに思ってます。約40年間も続けてこられたということになりますというと、やっぱり保護者はもちろんですけども、関係者の皆さん方の思いというか熱意みたいなものが、本当に大事に大事に育てて、今日までなってるんだなってことを思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今月、6月というから、もうやったのかどうか分かんないんですけど、6月場所、夏場所をやるそうなんですよね。40年ぐらいたつんですけど、通算で118回続けているそうです。それに今度園児の親御さんたちが、化粧まわしを作ってくれているんですよね。それをつけて相撲大会に臨んでいるということですが、そのときの手作りの化粧まわしが、生涯学習センターで飾られていたんですが、94枚ほどあったそうです、これは全部ではないと思うんですが。

私も生涯学習センターへ化粧まわしを見に行ってきたんですが、大変な力作ぞろい、びっくりするぐらい。上手に作ってあるなというふうに見てきました。やっぱりこういうものもやっぱりPRに使えるんじゃないかなというふうに思いますが、市長は、就任して、大変挨拶もあるとかいろいろ忙しかったんですが、このまわし、化粧まわし、見に行かれましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

拝見させていただいていることは、拝見させていただいております。過去にもそういう展示、また、化粧まわしをつけた保育園児等の活動も見たこともございますので、それについては拝見しているということで、お答えいたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

この化粧まわしも大変力作ぞろいだということで、園長先生とすれば、多くの人から見ていていただきたいということで、ここの1階にも展示させていただきたいというふうをお願いしたそうですが、総務課から断られたということで伺っております。それは、後でお伺いしたら、7月の選挙があるんで、なかなか展示ができないということだったんですけど。後日、生涯学習課から連絡がありまして、19日から青海のきらら、その後はキターレで展示をしていただけるとということで連絡があったということで、そのとき園長先生が、相撲のまち糸魚川ですもんねとポツンと言、大変うれしかったそうです。

庁舎は、選挙が、また7月の選挙が終われば、またいつか飾れるときがあると思いますので、相撲のまち糸魚川をPRするためにも、1階でも飾るような計画というのはできますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

おはようございます。

お答えします。

市役所の1階、大会議室という名称になっておりますが、名前のとおり会議や事務室等で使うほかに、行政関連の展示などを行うことができます。今回、選挙が終わった後なんですけれども、10月に国勢調査がありまして、その事務所として引き続き使う予定で、実際には、ちょっと今年度についてはなかなか難しいところがございます。市民ロビーにつきましては、土日が閉まってしまうというような制約もございますので、市内には、今ほど提案あったような、生涯学習センターや文化施設のほうもございますので、より多くの方から見ていただけるとということで、そちらのほうも活用いただければと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ検討してみてね、すぐ終わるもんじゃなくて、これからやっぱり相撲を活用して、糸魚川市を盛り上げていこうということなんで、いつか日のあるときに飾っていただければなと思いますし、やはりお願いする木浦保育園としてみれば、やっぱり市役所、本庁の1階で飾ることが、やっぱりね、うれしいんだと思いますよ。ぜひ、いい日があったら検討していただければなというふうに思っております。

先ほど教育長もちょっと話をされていましたが、子供たち、体同士をぶつけ合いましてね、負けた子はやっぱり泣くんですよ。それがまた心を強くしていくとか、身も心も強くなって、自分自身がたくましくなっていくというふうには私は思うんですけど、やっぱりそういった取組をほか

の園でやってくれということじゃなくてね、こういう取組もあるんだということをほかの園にもPRしながらやることによって、子供の教育にも生かしていけるんじゃないかなというふうに思いますが、その辺はいかがですか。ここを利用して、子供教育に生かしていく。その辺のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

小さな園児たちが、全身を使って、要するに五感をフルに活用しながら相手の力士と一緒に戦うというような場面については、非常に心身の健康づくりとか、意思の、何ていうかな、結局、相手を思いやるということも学ぶんだと思うんです。だから、体と心と、そして自分自身の志みたいなものも含めて、やっぱり人間形成には大事な場面なのかなというようにことを思ってます。だからこそ、木浦保育園は、みんなで力を合わせて、それを大事に大事に取り組んできたんじゃないかなというふうに思ってます。その取組について、やっぱり多くの方々に知ってもらおうということも大変大事なことなのかなと思います。取り入れる、取り入れないは、別にしましても、子供たちを育てる大事な場面として、そんなふうな活動も大切なんだよという部分については、尊重して、広めていきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ相撲のまち糸魚川、活性化につながると思いますので、ぜひ活用していただければなというふうに思います。

高野能生事務所にちょっとお伺いしたんですが、相撲、化粧まわしがあそこに展示してあったわけですね。私も見に行ってきたんですけど、隣にテーブル、机を置いているわけですけど、あそこへ見に来た人たちが、結構、大の里の写真と一緒に化粧まわしがあるって喜んでる人たちもいたんですけど、特段、高野さんのほうには、そういう情報はないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

高野能生事務局長。〔能生事務局長 高野一夫君登壇〕

○能生事務局長（高野一夫君）

お答えいたします。

やはり今回の展示については、かなり多くの方が見に来ておられまして、しかも長い時間滞在される方が結構おられました。そういった方たちとも私、少しお話をしたんですが、やはりこの歴史ですとか、あまりにも立派な作品が多いもんですから、保護者の皆様のたたえる言葉ですとか、そういったものが多かったかというふうに思います。

また、他の保育園の園児たちも見に来ておられまして、そういったところも喜んでいる様子を確認しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ありがとうございました。ぜひこういう子供たちの、保育園児の相撲の取組、それから中学校、高校、それから大学というふうにつながって行って、角界へ入って横綱になるという、そういう流れが糸魚川市にできるとありがたいなというふうに思っています。

それに関連いたしまして、次に、能生中学校の相撲留学について伺います。

過去には、大の里のように家族がいなくても能生中学校へ入学することができました。それが、ある生徒の暴力により、親が一緒でないと入学ができなくなりました。それは、私もやむを得ないことだなというふうに理解をしておりますが、やはり他県の中学校を見ると、やはり中学校から認めているところもあるようなんですよね。やはり大の里がやっぱり強くなるというのは、中学校、高校、大学という流れがあったからかなという。中学校へ来たときは、海洋高校行って、高校生の胸を借りて相撲を覚え、海洋高校へ入学してからは、日体大の先輩の胸を借りて、相撲を覚えて。また、親方連中も年に何回か来ているようでありますので、そういう人たちからも教えを受けて、今の大の里、横綱があるのは、やっぱりそういった流れが大事ではなかったのかなというふうに思います。

今こういうふうに全国的にPRされると、もう今でもね、沖縄から来たり、いろんな出身の人がいますけど。強くなりたいということで、小学生が能生中学校を目指してくる人がいるのではないかなというふうに思いますが、私としては、そういう子供たちの夢をかなえさせてあげたいなというふうに思うわけですが、今こういう事件がありましたので、そういうこともできないときだなというふうに思っておりますが、当時のそういう本人も関係者も猛省してるということでありますので、もう一度、いつ時期が、そういう時期が来るのか分かりませんが、時期が来たら検討をしていただきたいというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

この問題につきましては、いろんな各方面からのしっかりした理解を得る必要があると、まず前段で思います。

もう一つは、今後、当然高校もそうですけども、中学、小学校の再編整備計画が出ていく中において、中学校の入学、転入学等に併せた仕組みづくりが、県教育委員会、市の教育委員会、また、全県的な流れの中で見ていかなきゃいけないと思っております。一部分だけの、何ていいますか、いわゆる相撲だけという部分じゃなくて、やっぱり特色ある学校づくりをすることによって、他県、また、市外からの受入れが可能になるような対応が、まず必要なんだと思います。

また、現在、多感な児童生徒につきましては、やっぱり親がそこにいるという状況も大切なものだと思いますので、それらの部分をきちっとトータルして考えて、この問題については当たっていかなければいけないんじゃないかなと思っておりますので、いましばらくお時間もかかると思いますけれども、対応については、また引き続き、またいろんなご意見を頂戴しながら進めていかなければいけないかなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

大変これデリケートな問題なんでね、あまり質問はいたしません、ぜひそういう子供たちが多分増えてくると思いますので、そういう子供たちの夢がかなうような、そういう対策も考えていただければなというふうに思っております。

次に、相撲のまち糸魚川について質問を行います。

この相撲のまち糸魚川後援会は、糸魚川総合相撲クラブと商工会議所、市観光協会などが中心になり、発起人代表を米田市長が務めるというふうに聞いております。県の認証手続を経てから、7月上旬に発足予定と聞いていますが、現在どれぐらい進んでいるのか、内容が分かればお聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

お答えいたします。

NPO法人の糸魚川総合相撲クラブが母体となりまして、今回、相撲のまち糸魚川後援会を設立するものでございます。今月23日に、糸魚川総合相撲クラブの総会が開催されまして、その総会で後援会の設立が承認されれば、その後、NPO法人としての県の認証手続に入りまして、発足につきましては、来月7月の下旬頃になるというふうにお聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

7月下旬、じきですよ、頑張っていたきたいというふうに思いますが。会が発足した後に、力士や指導者の応援、相撲教室の開催などに力を入れていくというふうなことを言われていたんですが、現在、海洋高校の卒業生、相撲の力士ですよ、10人ぐらい角界に入ってると思うんですが、今後、一人でも多くそういうところに行けるような力をつけてもらえればありがたいなというふうに思いますけど、当然、会員を増やすためには、東京糸魚川会とか関西のほうとか、そういうところにも応援を、会員誘致というのは行うということによろしいですか、市民だけじゃなくて。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

今回の相撲のまち糸魚川後援会は、糸魚川市民だけでなく、やはり糸魚川ゆかりの力士、海洋高校に集まってきていただく県外、市外の方を応援するという意味で、やはり東京糸魚川会、関西糸魚川会のほうにもお声がけをさせていただいて、市民とそれ以外の県外の方も一緒に糸魚川のこの相撲を盛り上げていただきたいということで、後援会のほうでは考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ多くの方に声がけし、糸魚川へ来た関係ない人たちにも見ていただいて、応援をしていただくということが大事だと思いますので、よろしく願いいたします。できれば一生懸命盛り上げて、小結ぐらいになってくれれば大変、私うれしいんですね。なぜかという、持ってきました。これですね、小結になると老眼鏡をかけなくても名前が読めるんですよ。横綱になればもっと大きいんですね。やはりここにバンと名前は大きくね、ぱっと見たら分かるような、こういうところに載るぐらいに、みんなを盛り上げていきたいと思いますので、一人でも多くの会員を募っていただければというふうに思っております。

また、後援会ができて、海洋高校の場合は県立ということで、金銭的な、市が直接金銭的な応援というのはできませんが、何か後援会とタイアップして、応援できることというのは、市独自ではあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

市のほうでは、例えば相撲の全国大会とかそういった場合に激励金を支給させていただいております。今回、後援会の中で、やはり各種そういう全国大会の遠征費等についても支援をしていきたいということをうたわっておりますので、市のほうも、後援会の動向を注視しながら連携を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今、海洋高校もいろんなところへ遠征に行きますよね。それで、田海さんの寮の辺、朝出るときに見てると、ほとんど関係者の車に乗って、出かけてるというのが見えるんですね。だから、何らかの形でそういう関係者が少しでも、経費がかかっていますので足しになればというふうに思っていますが、そういうところも後援会として応援できる部分だということによろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

今回の後援会の設立の一番のやはり大きな目的は、海洋高校相撲部、いろんなことで金銭的な支援が必要だということを、やはり後援会の有志の方が一番心配されておまして、そこをまず重点的にご支援させていただくというふうにお聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひよろしくお願いいたします。

次に、海洋高校に土俵があるのは当然分かってるんですが、市内には、根小屋と高畑と横町、3か所に土俵があると思うんですね。これは、各地の相撲大会等あると思うんですが、これどのように、年1回とかそこらなんですか、どのように使われているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

横町と高畑地区につきましては、毎年8月に相撲大会を行っております。根小屋地区につきましては、コロナ禍で一時期、相撲大会が中止されておりましたが、今年は9月に再開されるということで、お聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今聞くと、あまり使われていないということですよ。結局、聞くとところによると、あまり使われないと、どうしても整備が行き届いていない。土俵が傷んでくる。そういったことで、やはり関係者も大変だというような話をしてたんですね。これを、例えば後援会のほうで、ボランティアでもいいんですよ。お金をということじゃなくて、ボランティアを募って整備をしていく。そういうことも考えていく必要があると思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

今現在は、土俵の管理につきましては、それぞれの地域、区で管理をされておりますが、後援会の事業の中に、相撲競技の環境整備等の支援というのもございます。そういったことで、後援会の中でまた今後、そういった部分のご支援もされるようにお聞きしておりますので、市といたしましても、その取組について情報共有を図ってまいりたいというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

よろしくお願いいたします。

私、海洋高校の地元なものですから、朝、生徒が、普通の生徒よりは少し早く行っているようなんですね。自転車に乗っていくわけですが、自転車がかawaiiそうながらいひしめきながら走っています。ぜひそういう子供たちが、もう少し自転車をいじめるぐらい体が大きくなって、強くなっていたきたいなというふうに思っております。

今後、先ほど市長も申しましたが、相撲だけではなくて糸魚川市の豊かな食や文化、そして、これからインバウンドが大変増えてきております。そういう人たちにも、ぜひ日本の相撲というものも海洋高校へ行けば見られるわけですので、そういう人たちにもPRしながら、糸魚川市の活性化、人口減対策に努めていっていただきたいというふうに思っております。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を11時10分といたします。

〈午前11時02分 休憩〉

〈午前11時10分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔17番 保坂 悟君登壇〕

○17番（保坂 悟君）

おはようございます。

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、市長公約である（仮称）駅北子育て支援複合施設の建設見直しについて。

（1）選挙公報の「本当に市民の声を聞いて進めたのか？」について。

① 駅北の復興計画、まちづくり戦略、（仮称）駅北子育て支援複合施設基本計画のどの部

分を指して言われているのか。

(2) 「久保田いくお公式サイト」の指摘項目と市民の声について。

- ① 「既存施設の利用」とは、どこを想定しているのか。
- ② 「本当に駅北がふさわしいのか」とあるが、どこならよいのか。
- ③ 「にぎわいの拠点施設」に対して「一貫した子育て支援になっているのか」とあるが、この問題提起の意図は何か。
- ④ 駅北における「にぎわいづくり」の対案はあるのか。
- ⑤ 建設見直しの場合の財源案やスケジュール案は考えているか。

(3) 屋内遊戯施設の認識について。

- ① 当市に屋内遊戯施設がないことをどのように受け止めているか。
- ② 運営費をかけても多くの家族連れに利用される屋内遊戯施設を造る考えはあるか。
- ③ 県内外の自治体、道の駅、ショッピングモール等が屋内遊戯施設に力を入れている理由を調査しているか。

2、市長公約である産後ケアと保育環境の充実について。

選挙公報に「一貫した子育て支援を」と市長は強調されていますが、具体的な取組について伺います。

(1) 産後ケアから保育環境の充実について。

- ① 1歳未満児への支援の考えはどのようなものか。
- ② 3歳未満児への支援の考えはどのようなものか。
- ③ 小学校入学前の幼児までの支援はどのようなものか。
- ④ 障害児や医療的ケア児の支援はどのようなものか。

(2) 市内の産後ケアの事業所への支援について。

市内では糸魚川総合病院とラ・マドレが産後ケア事業を行っているが、具体的にどのような事業者支援を検討されるのか。

(3) 市内の産前産後ケアの体制づくりについて。

産科医不足が叫ばれている中、糸魚川市として産科医ありきの想定で体制を進めるのか。それとも産科医が確保できなくても安心して子供を産み育てられる環境整備にシフトしていくのか。その方向性について、どのように考えているか。

3、市長公約である学校の再編、地域展開への移行、多様化への対応、施設の再構築についてと大学・専門学校等との連携、キャンパス誘致について。

(1) 教育移住の推進について。

- ① 近年、全国では自然環境や少人数制クラスによる先進的・特徴的な学校を売りにした取組がある。当市でも親子ワークショップ体験入学や陰山メソッドによる基礎学力の定着を図る取組がある。今後、幼稚園や保育園、小中学校、高校において、新しい取組を行うことが市長公約にある多様化の対応に含まれるが、具体的にどのようなことを検討されているのか。

(2) サテライトキャンパスの推進について。

- ① 海洋高校と近畿大学が連携してノドグロの養殖に挑戦をしております。水産業のスマー

ト化や働き方改革などに対応するため、海洋水産系大学の誘致をどのように考えているか。

② 地元企業が農業や林業に力を入れております。農林業系の大学の誘致について検討をしているか。

③ 糸魚川市は、世界ジオパークのまちであります。地質や鉱物、動植物の生態関連の大学の誘致について検討をしているか。

4、市長公約の縮充と新しい糸魚川づくりについて。

(1) マリンドリーム能生のかにや横丁と鮮魚店の前の段差について。

混み合っているとき、段差を踏み外して、けがをすることがあると聞いております。紅白のペイントで対応しているが、段差をなくす考えはあるか。

(2) 旧姫川病院の対応について。

テレビ番組やユーチューブ等では心霊スポットとして紹介されております。観光振興や安全面の観点から、マイナスイメージとなります。市長として取り組む考えはあるか。

(3) 個人住宅用の防犯カメラの設置補助制度の創設について。

長野駅の殺傷事件で「リレー捜査」という言葉が話題となりました。市内でも様々な事件や事故が起こっているので、個人用防犯カメラの設置の推進を市長として取り組む考えはあるか。

(4) 学校給食の無償化について。

① 来年度、全小学校で実施予定であるが、準備はできているのか。

② 全中学校での実施に向けて課題や問題点はあるか。

③ 小中学校給食の無償化に向けて、財源確保のめどは立っているのか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

それでは、保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、これまで復興計画やまちづくり戦略など様々な場面において、市民の声を聞く中で進められてきたことは承知しておりますが、一方で、大規模な建物整備を心配する声も多く聞いたことから、そのような表現をしたものでございます。

2点目の1つ目と2つ目につきましては、市内既存施設の利用を含めて再検討をすることが必要であると考えており、複数の候補地を確認しておりますが、現段階では、場所等は未定であります。

3つ目につきましては、産後のケアから乳幼児、障害児までを含めて連携を持たせることが重要であるとの考えから、そのように表現したものであります。

4つ目と5つ目につきましては、現在の国補助事業の継続を前提として、にぎわいの一助となるよう検討を進めたいと考えております。

3点目につきましては、まずは子育て世代からのニーズが多いこと、荒天時の遊び場だけでなく、夏の酷暑により屋外遊びが困難な日もあり、市民が市外に出向いている状況もある中で、屋内遊戯施設の必要性は感じております。

また、少子化だからこそ、子育ての孤立化を防ぎ、安心して子育てができる環境を整備するという視点も持ちながら、早急に既存施設の活用を含めて整備したいと考えております。

2番目の産後ケアは、子育てに対する支援の始まりであると捉えております。

1点目につきましては、妊娠支援給付金の給付をはじめ、産婦の身体的回復や心理的安定に向けた保健指導、子供への各種健診など行っております。

また、子育て支援センターや病児保育など安心できる子育て環境の整備のほか、医療的ケア児については、やまのい保育園での看護師配置や民営保育所等への職員の加配など、それぞれの発達段階や状況等に応じて、きめ細やかな支援が実施されていますが、それらの連携、継続性を意識する中で、さらに必要となる支援を検討し、一貫性が感じられる事業展開を図ってまいります。

2点目につきましては、それぞれの特性を生かし、事業所と情報共有を図りながら、今後の支援を検討してまいります。

3点目につきましては、医療環境がどのようなであっても、市内で、安心して子どもを産み育てることができるように、環境整備を進めてまいります。

3番目の1点目につきましては、総合的な学習をより充実させ、主体性や協働性の育成、社会との関わりの中で自分の目標や生き方を考える力などを育成することで、それぞれの個性を生かし、その能力を伸ばすための多様な学びに対応し、移住等にも資するよう取り組んでまいります。

2点目につきましては、当市の特有の自然や地質、歴史文化は学生が研究するフィールドとして適していると考えております。

既に地質の分野では、新潟大学のサテライトミュージアムとして相互に活動しており、それ以外の分野では、現在、連携協定を締結している新潟食料農業大学などとサテライトキャンパスの設置に向けて、協議してまいります。

4番目の1点目につきましては、株式会社能生町観光物産センターが段差注意の看板設置や色分けするなど注意喚起をしているところではありますが、段差解消については、管理者と協議してまいります。

2点目につきましては、非常に悩ましい問題ではありますが、市は土地・建物の権利者ではないことから、現状では、市が主体となって取り組むことは、法的に困難な状況であります。

3点目につきましては、補助制度の創設等は今のところ考えておりませんが、関係機関と設置効果等について検証してまいります。

4点目につきましては、市の財政負担がどうなるかが一番の課題であると考えており、国の動向を注視してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

選挙公報の1番目の1番ですけども、選挙公報の本当に市民の声を聞いて進めたのかという言葉、この選挙公報に書かれているんですけども、これを見た瞬間ですね、これまでの、何ていうのかな、質問項目にも書きましたけども、あらゆる会議体、団体への聞き取り、また、地域住民等への聞き取りをやってきた中で計画が進んできてるんですけども、市民の声を聞いて進めたのかって聞かれると、そこに参加されてる方だとか、どういう気持ちになるのかなと思ったときに、ここは、むしろそこまでしてここまで書いた理由として何か根拠があるかと思いますので、そういったところを改めて聞いておかないといけないかなと思いました。そうしないと、会議体で吸い上げた声が、何か全部うそみたいに聞こえてしまいますし、特にパブリックコメントまでして、過去にないぐらいのコメントが寄せられたわけですよ。それが本当の声でないというふうにしてしまうのは、ちょっと横暴かなと、横暴に思えるので、その辺の見解をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

私自身、いろんなパブリックコメントも、令和5年に公表されたものも読ませていただきました。さらに、いろんな会議体についての意見の部分についてもお聞きはしております。次いで、加えて言うのであれば、私自身が寺島区の区長として、区長会、連合区長会、能生、青海等の地域活性化協議会等に出向いた際のお声もお聞きしておりますので、一番、その直近といいますか、そういう声の集約が私の耳に届いていたということの中での表現というふうに捉えていただきたいと思います。決して、今までの声を無視してるわけではなく、それに付随して、さらに声が上がっている部分も耳にしたということで、理解をしていただきたいと思います。

また、公共事業など大きなプロジェクトについては、地域が受け入れる形にしてもらわないと、必ずあつれきが生じるというふうなことも踏まえた上で、その声を無視しているわけではございませんということで、ご理解していただきたいと思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今ほどのご答弁ですと、区長さんをやられたときの活性化協議会と、あと地域住民が、施設を受け入れるに当たって問題があるというような今、受け止め方をしたんですが、それは具体的にどの

ような声だったのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

まず、一番大きな声は、その施設の機能の部分と、もう一つは事業費に係る部分について、ご意見をお聞きしたということでもあります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

その施設の機能の何が問題なのか。

あと、事業費の何が問題なのかを知りたいので教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

当時、私が耳にしていたという部分、また、情報を私自身が目にしたという部分でのお答えになるかと思いますが、事業費については約14億、それに加えて、プラスアルファ年間の運営費についてであります。それについて、市の財源措置、そして国からの交付金への戻しもある中での部分は、承知しております。

ただ、最終的に建設にかかる費用を投資した費用対効果についての疑問の声は聞いているということでございます。

さらにもう一つの観点から言えば、機能の部分であります。当初の要求水準書等を見ますと、やはりそこに入ってくる、私の最初の答弁でも言いましたように、産後ケア、そして重度心身障害児、そして、その保護者に関わる部分の関連している部分が不足しているのと、商業施設が入っていない中で人流を見込めるのかどうかという疑問もございました。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今ほどのまず、どうしましうかね、じゃ14億プラスアルファ、年間5,000万掛ける10年の費用のところからいったほうがいいのかな。今回この計画がすごく進められた根本的な理由の中に、やっぱり国の財源が有利であるということが非常に大きかったかなと思っております。今回、金額的には12億4,200万だったかな、建設費のほうで。全体であるんですけども、ちょっと今回それで、これを中止にするという話から、そんなに国からの補助が難しいものなのかな

というのを自分なりに考えてみまして、すいません、ちょっと口頭なので、またメモを取りながらちょっと聞いていただきたいと思うんですけども。現行の基本計画、子育て支援複合施設の基本計画をベースにちょっとお話させていただきますが、建設費と運営費で、運営費10年間分ですから17億4,200万円、建設費と運営費の総トータルが17億4,200万円として、市の負担額が18.5%として2億7,380万円という数字が、基本計画の中に示されております。旧井上商会の土地代で約1億円。それを市の負担額で18.5%を掛けると1,850万円。旧東北電力ビルの解体費で、今のところ9,800万ということなので、これに市の負担額18.5%を掛けると1,813万円。さらに今回、旧宮田ビルの解体費が入ってきましたので、1億5,200万円に対して市の負担額として18.5%で計算させていただきますと、2,812万円と。これらを合計すると3億3,855万円になります。つまりDBO方式の基本計画でいけば、3億3,855万円で12億4,200万円の施設ができる。

ただ、さっき市長がおっしゃったとおり、年間5,000万の運営費というのが拠出しなきゃいけないんですけども。ただ、逆に見ると、年間5,000万円の10年間分も込みにした形での今回の国の補助というふうにも見れるので、かなり有利というふうに見ております。

今回、ちょっと私、気になってたのが、今回、市長の建設中止の場合、建設中止の場合で、国の補助金が使ええるパターンと、また使えないパターンがあるのかなと思っておりまして、もし、建物じゃなくて公園などの広場で整備して、国の補助金が使えたとしても、当初のにぎわいの拠点ではないため、建設費がやっぱり少額になっていくんではないかと。土地代やビルの解体費にどれだけの補助が受けられるかちょっと見通せない状況。

また、今度、補助金が使えないパターンです。これが一番心配してるんですが、旧井上商会の土地代1億円と、あと旧東北電力ビル並びに旧宮田ビルの2件分の解体費で、今2億5,000万円。合計すると3億5,000万円が、下手をすると一般財源で全部賄う結果になるんじゃないかなという懸念がございます。

こういった、ただの更地の土地に3億5,000万をかけてしまう結果になるのをちょっと心配してしまっていて、だったらそのリスクを考えたときには、現行の計画のまま進めたほうが、同じ3億5,000万弱のもので箱物ができて、にぎわいの拠点となり得る可能性のある施設になりますから、そういったほうが単純にいいのかなと思うんですが、今回、それを中止にしたその理由が、私の中でちょっと理解に苦しんでまして、だったら何も解体しないでそのままにするとかというほうが分かりやすいんですけども。計画を中止して解体をするということは、そんだけ真水の水で市が負担しなきゃいけないお金のことも考えなきゃいけないので、その辺の考え方をちょっと、もう一度再検討する必要があると思うんですが、その辺の考え方はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

今ほどの保坂議員のおっしゃられることについては、私どももきちっと把握した中で、事務方のほうと検討をして、今進めております。基本的には、保坂議員が言われるリスクの排除をするということの見直しということで、進めております。現時点でのDBO形式での建設については中止と

いうことでありますので、そこの部分の仕切りについては、見直しという部分の部分で捉えていただくようにしていただいて、今後の当行政側でこれからつくっていく整備計画について、またその部分については、ご理解をしていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

理解していただきたいというご答弁だったんですが、そういうことではなくてですね、現行の計画でいくと、糸魚川市の負担額に対して大きな箱物ができて、そこでいろんなサービス展開ができるわけですよ。それで、今の中止にして、その国の補助金がもらえたとしても、今のままだと多分、公園みたいなものをイメージはしてるんですが、それが当初の、当初の復興計画のにぎわいくりの描いてきたものとは、多分か離れたものだと思うんですよね。それでよしとする理由がまず分からないのと。

あと、もし国の補助金が当初の計画と違うねと言われたときに、国は払えないよと言われた場合に、その解体費であるとか、井上商会のその土地の買取り分だとかというのが3億5,000万円を市が今度負担する形になるんですよ。そうなったときのリスクを考えると、中止にするともう結論、市長出されてますけども、すごく私は性急な感じがして、そこを心配しておるんですよ。もう担保取れてね、国の補助がもう確実に頂けると。市が身銭を切らなくても大丈夫なんだということが分かれば、またそれは違う検討の方法があるんですけども。今のままだと非常に何か危惧のほうが大きくて、それをやっぱり払拭していただかないと、ただ更地だけ頂いてもみたいな話になって。

議員の中には、やっぱり財政が厳しいから、箱物を単純に建てるということには皆さん慎重な方も大勢おられますし、今回の計画は6年がかりで積み上げてきたものをパーンと中止と言われても、なかなかすんと理解しにくいわけですよ。であるならば、その市民にとって利益があるというか、市民にとって有効な手だてというところをきちんと説明していかないと、私はちょっと今のままだと物足りないというか、という感じがしますんで、その辺の見解をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

保坂議員のみならず、議員の皆様、また市民の皆様については、危惧されてる部分はあると思います。

ただ、私自身が、今回見直しという部分に至った経緯については、前段申しましたとおり、やっぱり地域が受け入れる形にしていいただかないとあつれきが生じるという点、そこの部分がまず1つと。

もう一つは、親子が利用する。町なかを流動していくという、いわゆるにぎわいづくりに資する意味で、どういうふうな機能があればいいのか、また、点在しながら流動性を持たせたほうがいいのかという検討も含んでおります。それについての再整備計画については、今、順次進めているところでございます。それをもって、国のほうに見直しという部分で提案をさせていただいて、ぜひリスクに係る部分については回避するという強い信念を持っていきたいと思っております。

また、建設に関わる業者、そして市民の皆さん、そして運営をする方が、三方よしの施設機能であるということが重要だと思っております。

また、当面の遊び場については、既存の場所、施設について、早急に整えるということで、まず、そういうことによって利用者が、またどういうふうな屋内遊戯施設が必要なのか、そして町なかを流動するにはどういうふうな思いを持っているのかという部分を、意見を含めた進展をこれから構築していくということを考えておりますので、決して、今のにぎわいづくりを全く否定しているわけでもございませんし、子育て支援について全く必要ない、屋外遊戯施設は必要であるという観点に立って再考していくということを申し伝えたいと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今ほどの議長の答弁からすると、その地域住民の受入れ、久保田市長の今のご答弁の話を聞きますと、地域に受け入れられる、じゃプランであるとか、市長の言葉を借りれば、バックキャスティングということで、10年後、20年後のゴールを逆算した形ということになれば、今現在、その対案が示されていれば、まだ理解ができるのかなと思うんですけども、対案がないまま中止というふうに言われますと、どんなものができるのかということがやっぱり見えませんし。地域住民の声も十分分かるんですが、先ほどもデータというか取組の中で、親子世代からのニーズは高い屋内遊戯施設があるということで認識はあるんですけども、やっぱりその施設の特徴であるとか、誰に使ってもらうものかという部分もやっぱりよく考えなきゃいけないので、少なくとも、さっきちょっと問題に上げてた施設の機能について問題点があるのであれば、こういったところを改善するであったとか、何かそういうものも言っていただかないと、多分、議論が深まらないと思うんですね。それに早急にやる、早急にやると言われても、今回、国の財源のあの期限もございまして、かなり早急に対応していかなきゃいけない内容かと思ってるんで、その辺どのように今後進めていくのか。どの時点で私たちにそれが、プランというか、示されるのか、その辺の考えを教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

国のほうに再提案をする際に必要な計画案については、今、作成を急いでおります。また、その

作成を急いでいる中において、今お示しできるという部分については、ちょっとまだ時期尚早という表現が適当かどうか分かりませんが、まず先にきちっとそれを固めながら、そして固め上げる際に、もう一度、議会のほうに、また市民の皆様提案をしていくという手順を踏めればと思っています。

いわゆる既存施設を使うということについては、さらにもう一度市民の声、また利用者の声を深めていくという部分では必要なステップだと思っていますので、そこについては、こちらのほうの計画を平行していくという観点でご理解をしていただければと思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

これからということで、その何ていうかな、検討しづらい内容でございます。今、市長の言葉で言うと、（2）のほうにちょっと移りますけども、既存施設の利用といいますけれども、今も言葉を使われてるんですが、これが駅北エリア内のことを言っているのか、駅北エリア外のことを言っているのかが本当に分からないので、それは今の段階で確定できることなんですか、それとも、そうではないんですか。その辺も含めて教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

結論から申し上げますと、駅北内・外で候補地を検討しております。それによって、内に造るケースと外に造るケースにおいて、その利用者の声が、また違ってくると思いますし、また、駐車場の問題だとかいろんな部分を勘案しながら、その候補地については、今当たっているということをお伝えさせていただきたいと思います。

どこにという部分についての限定した部分については、今控えたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

そうしますと、②番のほうに市長が言われた、本当に駅北がふさわしいのかという部分に係ってくるのかなと思うんですけども、市長とすれば、基本的には駅北外のほうが理想かなと考えてるという、市長としてはそういう受け止め方でよろしいんでしょうかね、こういう投げかけをしてということとは。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

先ほど機能という部分でございますけれども、やはり私も先般、子育てをしている方々と中央公民館、糸魚川公民館ですかね、そこに行かせていただきました、直近では。それ以前でも、糸魚川病院における産後ケアの問題、そして、ラ・マドレさんにもお話を伺ってきました。それぞれ子育てに関する、また、遊びに関する利用者のニーズというのは、単独で遊びたいとか少人数で遊びたい。また大きなところで遊びたいというニーズがある中で、1か所に絞ってしまうと、それが非常にごちゃ混ぜになってしまうという懸念があります。なので、そのニーズに応じた中の適地というものをまず点在させていくということ、そしてさらに、その点をさせていく中で、新たな考え方ができた場合には、別建ての事業も含めて検討すべきではないかという部分は、いわゆる行政サイドのほうには、私自身の思いとしては伝えてあります。

ただ、その行政サイドとして、そういう部分の事業立てをするという部分については、またそれぞれの、行政としての進行の仕方がございますので、私の思いだけ一方的に伝えるということは、避けながら進めていかなければいけないというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

私、今回いろいろ市長の考えを理解しようとは思いますが、どうしてもこれまでの6年間のいろんな会議の流れを見てきてね、まずは、駅北大火の後の復興ということで、そのにぎわいの拠点というところからスタートして、その後、地域住民でいろんな商業施設の声も出ました。銭湯がいいとかコンビニがいいとかスーパーみたいなものが欲しいとか。けども、どの会議があってもいろんな意見は出るんですが、それをどなたかがリーダーシップを取られて、一つにまとめてショッピングモールみたいにして、みんなテナントで入るようにしようとか、いやいや道の駅みたいにしてやろうとかという話にはならなかったんですね。最終的に意見は聞いたんだけど、そういったまとまりがなかったがゆえに、市としては、それでも何かそのにぎわいの拠点づくりということで、長年、懸案事項であった屋内遊戯施設というものを提案したらどうかと言って、出てきて、子育て支援センターのこともよく出てくるんですが、あくまでもやまのい保育園で手狭になっているのはめだか園のほうであって、そのめだか園の部分を子育て支援センターで、そのスペースを使うということで子育て支援センターを、じゃ屋内遊戯施設につけるよというのが、本来の流れだったんですよ。それが、何でか知らんけど、途中から子育て支援センターがバーンと前に出ちゃって、子育ての施設みたいなイメージが湧いてるんですけども、本来は、屋内遊戯施設に市内の人も市外の人も多く使っていただいて、駅北に人流ですよ、人の流れを入れて、あと、民間レベルで来ていただいたお客様に何か食べてもらったり遊んでもらったり、購入してもらったり、またはコミュニティの場にしてもらったりというようなのが、分散型施設として、民間主導でやっていただきたかったイメージなんですね。

それが、すごく子育て支援センターにすごく偏ったため、久保田市長の公式サイトの中にも子育て支援センターの利用者数をばあっと書いてあって、1万人で何か割り返して、1日5,000円、1人の利用が5,000円とか1万円とかって書き方されてあったんですけど、本来はそうではな

くって屋内遊戯施設の利用者というところで、ただ、過去に、平成22年のときに中央保育園の遊戯施設を開放してもらって、わんぱくホリデーというのを糸魚川市、過去にやっとなですね。最初それなりに入ってくださって利用者も多かったんですが、やっぱりそこにスタッフがいなくて、子育てを相談できるスタッフだとか遊びをレクチャーしてくれるスタッフとかいなくて、ちょっとマンネリ化してしまって、少し衰退したという、そういう過去の結果というかデータもあるんですね。だから、いかにそこにマンパワーというか、その施設を守っていく人、また、その施設を楽しませていくような人ってすごく大事になってくるんですね。そういった意味で、今回の運営費の5,000万という中に、一応、市としては10人ぐらいで1人350万ぐらいで計算してるみたいですけど、本来は、にぎやかにするためのマンパワーの人を囲っていかなきゃいけないというところで、それなりの金額が、私、たたき出してあるんだらうという認識でいたんですね。

そういったものを今回、話を聞いてると、まず、駅北なのか駅北エリア外なのかとか、子育てに、一貫した子育ての施設みたいなものをバーンと打ち出してるんですけど、事の起こりは、やっぱりにぎわい、駅北のにぎわいを呼び戻すというところから来てるので、ちょっとその辺も何か違う方向に行ってるようなイメージが私には受け止められてるんです。だから、あくまでも駅北復興計画の中の流れというものを考えていくのか、そうじゃなくって、糸魚川市のもう全体の、何ていうか市民サービスについて計画立てるのであれば、それこそ立地から何から全部やればいい話なんですね、計画自体を。でも、今回は駅北という、もう立地がもう限定された中でのスタートなんで、それをいろんなことを混ぜこぜにしたがために、何かその市民の声という形で言われるんですが、それをもうちょっと、これまでの経過というのをどの程度整理されて、今回の中止というのを出してきてるのかちょっと分からないんで、その辺、もし整理できたら教えていただきたいんですね。お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

保坂議員の思いの丈については、私自身も重々理解しております。にぎわいのまちづくりと子育て支援複合施設について、別に考えるとかがちゃごちゃになってるということじゃなくて、卵が先か鶏が先かという問題にも似たような感じなんですけども、今その建物を建てる際にも時間と労力が必要になってきますよね。でも今必要なのは、実際、利用者が今そこにいるという現実を見て、その人たちが、まず、屋内で遊戯できるような、しっかりとした施設じゃないにしても、そういう部分をきちんと整えて、そして、その中で運営をしていくという体制づくりもこれから考えなきゃいけないと思うんです。今、オペレーションの部分で年間5,000万かける云々というよりも、現時点で今、オペレーションに携われる人たちが、現在、糸魚川市にいるという実態も含めて、そういう人たちの手を借りながら、一旦オペレーションしていききたい、運営をしていききたい。そして、その中において、その特性に合わせた子供たちのニーズ、特性に合わせた部分でオペレーションする人たちをそこに配置していったって、まず試行的に、子供の遊び場、健全な育成について考える時間を整備計画と同時に進めるために、そういう部分の既存施設の利用をしたいという部分が思いです。

既存施設については、当然その中に機能的な充実を図る意味では、別建ての事業に持っていくことも考えなければいけない。今回の整備計画以外のところでも考えなきゃいけない。でもそれは、真剣になって考えて、国・県へのやっぱり要望、また申請をするということに、やっぱり大きな労力を割くという覚悟を持たなきゃいけないと思うんです。それが、さっきで言うバックキャストिंगで言うと10年後、建てて、そういうものがあってよかったというものにつながってくると思うんです。

この後のいろんな方々の答弁にも出てきますけれども、やはりにぎわいという部分、ということは、多くの人たちがそこを利用して、流動をしていくということを考えたときに、やっぱりその中に、例えばです、クリニックを入れるとかということもしなきゃいけない。じゃ、クリニックを入れるのであれば、そこにドクターを何とかしなきゃいけない。今の現状でいくと、なかなかそういう部分も難しい。でもそういう交渉をしていくということも、これから英断を持ってやんなきゃいけないと思うんですね。

でも、何もそういうことを計画しないで交渉はできないという部分も、私自身が持っている中で、今回、見直しという部分に際して、そういうことも付随して取り組んでいきたい。また、10年後の糸魚川市民にとって必要なものが、順次造れるものであれば、そういうところに持っていききたい。取りあえず、あそこの部分を解体し、そして、次なる整備計画をお示しする中で理解を深めていきたいという部分が、私自身の思いなんです。

だから、行政サイドとしては、市長、それは難しいですよ、大変ですよ。でも、できない理由を言ってしまえば、ものは進まないと思うんです。何とかしようという思いがあって、議員の皆さんと共にそういうことを考えて、こういう案でいったらどうだということをいろんな意見を聞かせていただいた中で、国・県への要望、そして、市民の理解を得たいという部分の思いで、今進めていきたいというふうに感じておりますので、ぜひその辺のところもしんしゃくしていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今のお話を聞いてますと、根本的にその計画を、別のものを計画を立てるというふうに受け止めたんですね、クリニックを入れるであるとか。ちょっと困ったなと思ったのは、今、市長のお話を聞いてると、市長、駅北にクリニックが必要だとか、商業施設が必要だという、もしプランを考えているのであれば、当初の駅北復興計画とかまちづくり戦略って邪魔になりますよ、もしそういう考え方を持っているのであれば。だから、そういったところも市民説明しなきゃいけなくなってしまうし、全く新しい計画を立てたいんだというほうが、聞いている側としてはすごくすっきりはします。

けども、今懸念してるのは、財源が、子育て機能ありきの駅北復興計画、立地適正化計画もあって、居住誘導といういろんな条件が整ってるから、この有利な財源が執行できるという状況にあるわけですよ。別に駅北にこだわらなければ、クリニックであるとか商業施設の新しいプランは、

またそれが道の駅なのか何だか、私、分かんんですけども、どっかの業者とタイアップして、ミニショッピングモールみたいなものを誘致するとかというのも考えられると思うんですけどね。だけど、そこをもうちょっと整理して言っていないと、今回の、厄介なところで言うと、財源ありきで物を考えていること、駅北大火の復興から始まっているところが、皆さんの思いと与えられる条件が、うまくかみ合っていない元凶なんですよ。だけどその中で6年間かけて突き詰めて、何かお互いに調和をして出てきたのが今の基本計画になっとなるんで、その背景と大意を考えた上で、やっぱりもうちょっと再検討する必要があると思うんですね。

市長が言ってる、そのクリニックであるとか商業施設を別に否定はしません。むしろそれがにぎわいになったり、糸魚川の経済活動の機運を持たせる施設であれば、全然それは進めていただきたいと思いますし、またそこに有利な財源があるのか、それとももっと違ういろんなスポンサーになる方がおられて、それに協力してそういった話が出てくれば、またそれはそれで検討していけばいいと思うんですけど。今この財源と今回の計画は、もう根本のところからちょっと違った方向に行っているんじゃないかなという懸念があるものですから、その辺は、いま一度確認・整理されたほうがいいのかなと思うので、そこは、そういう検討する余裕はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ご意見は、非常に私自身も理解できる部分もあります。

ただ、先ほど保坂議員もお使いになった言葉でバックキャスティングということがあって、過去6年間通してやってきたということが、その次のバックキャスティング、いわゆる先ほど保坂議員も言うように、まちのにぎわいという部分の観点からいうと、そういうものも必要ですよ。でもその過去6年間の事業計画の中で、そういうものが入っていない計画で、今の建設であるのであれば見直してくださいと。私がいうバックキャスティングについては、そういう機能がある施設であれば、この建設計画をそのままスタートして、みんなで押していこうという思いもあります。

ただ、そういう部分が、やっぱり10年後を見据えた中にないのであれば、一旦見直した上で、この整備計画をもう一度考えませんかということになっているということなんです。全てを否定しているというわけではないという部分から、もう一度、整備計画を見直すという表現でしかお伝えできないのかなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

もう一つ、保坂議員が懸念してます、これから国へ再度提案する際の財源については、こちらのほう、行政サイドでも検討しながら、そういう懸念材料に行かないような部分での対応を順次、今検討しながら進めておりますので、その辺のところも一応ご理解していただければと思います。

○議長（古畑浩一君）

一般質問の途中でありますが、昼食時限のため、13時まで暫時休憩いたします。

〈午前11時59分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

それでは、午前中に引き続き、一般質問を行います。

保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

それでは、質問の大きい1番の（2）の④のところで、駅北におけるにぎわいづくりの対案はあるのかということで、ちょっと私、聞き漏らしたかもしれませんので、少しその対案めいたものがあれば、ちょっとご紹介いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

にぎわいづくりについては、現在までに進行しているプラン、いわゆる実行しているものも含めて、これからそれを先に延ばしていくということは考えております。

ただもう一つ、にぎわいづくりにおいて言うならば、やっぱり町なかに人を誘導してくるという部分において言えば、やっぱり新幹線駅の利用から含めて、ロの字の活用、今単発的なイベント等で活用しておりますが、非常に多くの方がにぎわっています。それが単発的に終わらずに、少しずつそれがある一定期間だとかいうものを含めていく。にぎわいづくりにおいて言えば、そういう人が、いわゆる多くの方が集える場所の確保も必要になってくる。それと駐車場の確保も必要になってくる。それと、大火からの復興というシンボルなんかも何かあればいいなというふうに考えておりますけども、にぎわいについては、後ほどまたお話しさせていただくこともありますけども、基本的に旧糸魚川の町なかというのは宿場町というふうに言われていますので、そういう機能を少しずつ加えていくということも必要なものなのかなと思っております。今頑張っていられっしやる事業所の方々が、さらに頑張れるようににぎわいを、いわゆるボリュームアップしていけばと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

私も駅北、今回建設中止って話もあるんですが、そういうことではなくて、やっぱり駅北全体のにぎわいづくりということで、私も今回、今中止になって公園になるのか、また箱物ができるのかちょっと分からないんですが、やっぱり能登半島地震のこともあって、垂直避難という部分も何か見据えた箱物ができればいいなとは思っている一人なんですけども。

そういう部分も含めながら今後、もしこのにぎわいづくりというところで自分なりにちょっと考えたのが、町なかジップラインとか、子供たちが町なかをジップラインで少し移動して遊べるであるとか。

あと、はだしでよく歩ける、前もどっかで言ったと思うんですけど、やっぱり噴水みたいな広場、下から水が出て、そこで子供たちが遊べるような広場。あと、場合によっては冬になれば、屋内でなければそりができるような、あえてそういう形状のものにして、少ない雪でもそりができるようにしてあげるとか。

あと、本町通りそのままを、皆さんご存じですかね、ティラノザウルスの着ぐるみみたいなものを着てレースをするというのがあるんですけども、ああいったものを、もう本町通り、もうそのときは歩行者天国みたいにして、トラックみたいなコースにして、定期的に大会をするとか。

あと、無電柱化なんで、ちょっと可能かどうか分かんないですけど、今の子供、たこ揚げとかしないと思うんで、あえて無電柱化になった町なかで、ミニゲイラカイトじゃありませんけどもそういうのを揚げてみたりするとか、そういうにぎわいのソフトメニューも、ここはちょっと考えていってもらいたいなと。

あと、以前から言ってる、私、こども消防隊すごく好きなもんですから、できればあそこにミニ本部みたいなものをつくって、レスキューもどきのアスレチックで体を鍛えてもらうコーナーであるとか。

あと、先ほどもちょっと市長にもお話ししたんですけど、チームラボさんが金沢市で行った、城壁の白壁とかに投影して、動物の甲冑着たりとか着物を着たりした格好で、参勤交代みたいに歩くシーンを投影してるのがあるんですね。本町通りで雁木が売りだというのであれば、そういったチームラボさんとコラボして、かわいい動物とか、また、かわいくなくてもいいんですけども、ちょっと面白いようなキャラクターのものを歩かせてみて、ショータイムですよ、そういったものをして、人を導入するであるとか。ちょっとそういうことも考えていっていいんじゃないかなと思います。

それから、もし可能であれば、以前、一般質問でも言ったことがあるんですが、公園もいいんですけど、やっぱり屋根があって、多少空調の効く空間があれば、子供たちの実験室みたいな遊び場というか、紙飛行機飛ばすでもいいでしょうし、何か石を割ったりするのでもいいでしょう。そういう空間が安全にできる場所、当然デジタルのところもあって、何ていうかな、そういう今言った書いた絵が、この空間の中を動き回るようなものができるものであるとか、そういったものもぜひ検討に加えていただきたいなと思うんですが、やっぱりそれは子育て機能に入らないのかもしれませんが、もしそういったところも含めて、今後、検討していただきたいと思うんですが、そういう考え方というのはできるものなんではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今、ただいま計画しておるところにつきましては、国の計画上では子育て支援に資するものといったところの目的を持っております。そちらの部分については、今後も継続していくものと考えておりますので、今ほど保坂議員からご提案のあった部分についても、子育て支援に資する部分というところでは、取り入れていける部分があるかとは思っておりますので、参考とさせていただければというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

次に、（3）番の屋内遊戯施設の認識について。基本的には、市長におかれましても屋内遊戯施設の必要性というものは理解されていると思います。特に近県の山形県、富山県、石川県でも多くの自治体で大小様々な屋内遊戯施設が整備されておりますし、福井県にいたっては、施設整備の計画を出した時点で、自治体に上限1億円の補助金を出すという、それぐらい積極的にやっているとところもございます。ぜひどんな形であれ、私は屋内遊戯施設は必要だと思いますので、駅北内、駅北外ありますけども、やっぱり人を呼び込める屋内遊戯施設というものをぜひ検討していただきたいと思います。

それで、ちょっと参考事例として、静岡県浜松市に車のメーカーで、スズキのメーカーで、スズキアリーナ森田というところで、L i M O L i M O もりたという名前で、ディーラーの車の並んでる、5台並ぶスペースのところの1台だけを置いて、4台全部取っ払って、子供の遊び場にしたディーラーさんがいるんですね。それで、無償で遊ばせるようにして2年間やったら、売上げが1.5倍になったという。これは何を意味するかというと、ただで遊ばせてもらってて、1台しか展示車両はないんですよ。だけど、そこを何ていうのかな、フレンドリーに、セールスかけるわけじゃないんですって、絶対スタッフは声かけないんですって、向こうから聞かれたときに、初めてその車のよさとか遊び心であるとかを紹介して、何となくのセールスらしいんですね。それで、逆に1.5倍売上げが伸びたという事例がありまして。だから、屋内遊戯施設というか遊び場というか、そのコミュニティの場所として屋内遊戯施設という魅力は、経済活動にもつながるものなので、単なる保育園の遊戯場という認識ではなくて、その交流の場、またビジネスチャンスをつかむ場というところもぜひ見ていっていただきたいと思いますし、また、いろんな事例あるかと思うので、人を呼び込める駅北、人を呼び込める糸魚川市になるように、あらゆる角度から研究をして、その中の一つの施設として屋内遊戯施設も検討していただきたいということを要望いたしまして、私からの一般質問とさせていただきます。

今日は、ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。〔8番 和泉克彦君登壇〕

○8番（和泉克彦君）

幸福実現党の和泉克彦でございます。

市議2期目として最初の一般質問になりますが、初心に立ち戻り、さらなる研さんを重ね、誠心誠意、市議としての使命を全うしてまいる所存でございます。

糸魚川市民の皆様方が、この糸魚川に生まれ、住み、そしてこの時代に生まれてよかったと心の底から喜べるような真の幸福が実現できますように、心に寄り添い、市民の皆様のお声を市政に反映させていきたいと考えております。

それでは、発言通告書に基づきまして、1回目の質問をいたします。

1、久保田市長が目指す「市民と共に未来を開く」まちづくりとそれに係る「縮充」について。

久保田市長は、「市民と共に未来を開く」まちづくりを目指すとされており、そして、市民の声に耳を傾け、共に考え、共に行動していく「市民参加型のまちづくり」を掲げておられます。これらと併せて「縮充」という考え方も示されておられます。

そこで、以下、伺います。

(1) 市長は、「市民の声に耳を傾け、共に考え、共に行動していく」とのことですが、このような機会を設けるために、どのようなことを想定されているのか、伺います。

(2) 市長は、これからの社会には、「縮充」という考え方が必要であるとのことですが、市長の言葉としては、「縮小」する現実を悲観せず、縮小する中で「充実」を大切にするというお考えですが、市長が、現時点でお考えになる「縮充」とは、具体的にはどのようなものなのか、伺います。

(3) 市長は、糸魚川の持つ豊かな自然、歴史、文化、ここに暮らす全ての方の力を生かしたまちづくりをお考えですが、糸魚川地域、能生地域、青海地域、それぞれの地域の特出すべき具体的なものを上げるとすればどのようなもののでしょうか、伺います。

2、マイナ保険証に係る現状と課題について。

紙の健康保険証の新規発行停止から半年がたちました。デジタル化の流れの中で主流となるはずのマイナ保険証の利用率の低迷や医療機関での何らかのトラブルが報道されています。そのような状況で、マイナ保険証を持っていない方への資格確認書の発送交付が来月末までに完了し、本人の手元に万が一届かなければ、マイナンバーカードの有効期限切れの問題と合わせて、マイナ保険証に係る混乱を招くことになりかねないということが懸念されます。

そこで、以下、伺います。

(1) マイナンバーカード、それとひもづけになっているマイナ保険証のそれぞれの取得率と利用率について伺います。

(2) マイナ保険証に係るトラブルが全国的に起こり、そのことがマスコミなどから報道されて

いますが、当市における現状や課題として、もしトラブル等があるとすれば、それについてどのように対応しているのか、伺います。

(3) マイナ保険証を持っていない方へは、資格確認書が交付される予定ですが、当市においても交付に向けた業務が適切に行われているのか、進捗状況を伺います。

(4) 本年4月、厚生労働省は、全ての75歳以上の後期高齢者と65歳以上75歳未満の方で、一定の障害があると後期高齢者医療広域連合から認定を受けた方に対して、令和8年7月末までの間における暫定的な運用として、マイナ保険証の保有状況にかかわらず、資格確認書が無償で申請によらず交付すると発表していますが、当市においても同様の対応がなされるのか、伺います。

3、J R大糸線の存続に係る現状と課題について。

糸魚川駅で北陸新幹線から乗り換えて、J R大糸線沿線を訪れる方々の姿、特に、外国人客の姿をこれまで以上に見る機会が増えてきています。

そこで、以下、伺います。

(1) 大糸線の利用客は、コロナ禍を脱してから増加傾向にあるのか、伺います。

(2) 昨年度からは、北陸新幹線と大糸線との接続状況を鑑み、利用客増加への取組として、大糸線増便バスの運行がなされています。この取組についてどのように分析しているのか、伺います。

(3) 今や3,000名を超える大糸線応援隊の現状と課題、これらを踏まえて今後どのような方向性を考えているのか、伺います。

(4) 生活路線としては厳しい状況にある大糸線であると思います。これまでは、沿線の魅力を発信しての取組や鉄道ファンを中心としたイベント的な取組がなされてきましたが、大糸線の現状を鑑みて、観光路線としての位置づけを明確にすべきであると思いますが、いかがお考えでしょうか、伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

和泉議員の質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、今年度、秋以降に各地区へ出向き、市民の皆様と懇談する予定としております。

また、年代、性別や業種を超えた様々な団体、組織との交流や意見交換の場を設けたいと考えており、今後、地区懇談会と併せて開催方法を検討してまいります。

2点目につきましては、人口減少・少子高齢化による縮小という現実をしっかりと受け止める中で、既存の事業の評価を行い、市民生活に必要な事業については充実を図る必要があると考えております。

3点目につきましては、糸魚川地域では、宿場町の拠点としての歴史文化、ヒスイや糸魚川真柏などの特産品、能生地域では、相撲をはじめとして、マリンドリーム能生、ベニズワイガニを中心

とした食や観光、青海地域では、天下の陰・親不知や市振の関といった歴史文化などが上げられます。

このほかにも各地域には様々な資源があふれており、これらを生かし、交流人口から関係人口へ発展させたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、7年3月末現在、当市のマイナンバーカード取得率は、約81%であります。

マイナンバーカードとひもづけされている国民健康保険加入者は約76%、後期高齢者医療保険加入者は約71%であり、そのうちマイナ保険証の利用率は国民健康保険では約46%、後期高齢者医療保険では約35%となっております。

2点目につきましては、報道されているようなトラブルの報告はありません。

医療機関においては、マイナンバーカードの電子証明書の有効期限切れにより、読み取りができない場合があるとお聞きしており、引き続き、更新手続きを呼びかけてまいります。

3点目につきましては、対象者の方へ確実にお届けできるよう、準備を進めております。

4点目につきましては、厚生労働省の通知に基づき、後期高齢者医療保険加入者全員に資格確認書を送付することとしております。

3番目の1点目につきましては、コロナ禍以降、年々、増加している状況であります。

2点目につきましては、目標は達成できませんでしたが、白馬までの直通運転による効果は示せたものと考えております。

3点目につきましては、大糸線応援隊の皆様からは、SNS等による情報発信やイベントなどを通じて大糸線の利用促進に貢献していただいております。

沿線自治体による利用促進の取組と応援隊や鉄道ファンの皆様の取組など、広がりを持った利用促進により、成果とともに、世論の醸成につなげたいと考えております。

4点目につきましては、引き続き、生活や観光路線としての位置づけで取組を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

まず、順番どおりに質問、再質問をさせていただきます。

最初のところで、どのように市民の方と関わりを持っていくかということですが、直接、秋以降、地域等に入られて懇談の機会をお持ちになるということですが、当選以後、私も地域回らせてもらったりしますが、やはり久保田市長への期待感の高まりを感じていて、直接お話ししたいという方も何人もいらっしゃいますので、スケジュール的にタイトな部分はあるかと思いますが、ぜひ市民の皆様のところへ足を運んでいただきたいというふうに思います。

2つ目ですが、縮充についてです。縮小する、人口減少等でだんだん、だんだん規模が小さくなっていくというのは分かるんですけど、縮小というと、どうしても何か尻すぼみになってしまっていて、あまりいいイメージがないと思うんですが。

ただ、糸魚川市においては、事務事業評価、特に今の段階では、第3次糸魚川市総合計画に基づいて事業評価をされているかと思います。総務省からも、政策評価に関する標準的ガイドラインというのが示されていて、評価の基準としては、必要性とか効率性、あと有効性、公平性、優先性ということが上げられていまして、当市においても、そのガイドラインにのっとった形で評価を行っているのかどうかということと、また、その評価の妥当性について、逐次検討を行っているのかどうかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

事務事業評価におきましては、20年以上前に国からガイドラインのほうが示されております。各自治体におきましては、ガイドラインに沿った形で評価が続けられていると思っておりますし、当市におきましても、同様に策定し、運用しております。

概要は、成果指標を定量化し、実績と比較することで評価を行い、次年度の予算に反映するよう取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

事業評価、かなり前から、20年以上前からされているということですが、ここ最近、市のホームページをのぞいてみますと、ちょっと様式が変わったというか、さま変わりしてしまいましたが、ちょっと事業評価を探してみたんですが、ホームページに載っていないんですね。その状況というか、それもしお分かりでしたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

ガイドラインは、可能な限り公表すべきとありますが、ご指摘のとおり、現在、当市のホームページには、事務事業評価のほうは記載されておられません。以前は、公式ホームページに事務事業評価を取りまとめたものを公表しておりましたが、この春の市の公式ホームページの更新時に、掲載すべき部分の作成が抜け落ちておりました。早急に作成し、掲載するよう努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

事業評価については、公開するという事にもなってますし、外部からの評価をする方を入れる

という、そういうガイドラインも示されてるんですけど、そこは、また別の機会に譲りたいと思います。

もう一回、縮充というところに戻りますが、そういうことで、この事務事業評価の結果を受けて、成果や効果が少ない事業について、単に縮小ということになると、それを一律に糸魚川市内全地域でされてしまうと、やはり特に中山間地域とか周辺地域の方は、驚きとか戸惑いでしかないと思うんですよね。ですから、先ほど市長答弁にもありましたけども、地域に足を運んでということで、やはり向き合って対話をしていただく中で、成果や効果が少なくても、その地域の方々にとってなくてはならないものであるというような判断をなされて、継続するものは継続、やめてしまうというか中止するものは中止ということで、判断の材料にしていただければというふうに思いますが、それについては、お考えいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

非常に貴重な意見だと思っております。現に今、私のほうに申入れをしまして、私のできる限り、来庁していただいて、話を聞く機会を適宜設けております。昨日も、ある地域の団体の方からもお話を伺いました。その際に、今ご懸念されている、常に縮小という部分から始めるんじゃないかという部分のご指摘いただきましたけども、そうじゃなくて、10から始めて、必然的に縮まってしまふものが確実にあるものについて、どうやったら充実させればいいのかという部分で、意見交換をさせていただきましたので、できる限りその意見交換の中でご期待に沿える部分と、まさに地元の人たちから、きちんとこれについてはもう妥協しなきゃならないという部分の聞き取りをしながらという部分で対話をしていきたいと思っておりますので、その部分は、逆に言うと議員の皆様からいろんな情報提供いただければ、それに輪をかけて対応できるんじゃないかと思っております。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

地域のそれぞれの状況を、実態を把握していただくということになります。事例を挙げますと、この春、糸魚川バスさんが、運転手、人員不足のために減便せざるを得ない状況になりました。そうすると、特に高齢者の方の買物や医療機関への足が確保されないということと、あとやっぱり病院に行っても帰る時間帯、1本逃してしまうと1時間、2時間待たなきゃいけないという、そういうお声を聞いていますので、またそういうことにも、当然、都市政策のほうで公共交通の協議会ありますので、またそういうところでも、また声を聞いていただいて、お願いしたいというふうに思います。

次に、糸魚川、能生、青海の3地域の特筆すべき特徴というか、それについて、移りたいと思います。

それぞれの特徴を生かして活性化を図るということですが、どうしても私としては、交通関係にどうしても先に目がいてしまうんですね。やはり最寄り駅からいろんな施設に向かうにしても、なかなか二次交通が充実していないというのが現状です。

ただ、この糸魚川地域中心部は、まあいいとしても、能生駅からマリンドリーム行くとか、それとか青海地域であると親不知、市振、特に市振で、全国からおいでになる方とコミュニケーション取ったりする機会ありますけど、やっぱり口々に、特に親不知、市振を観光したいんだけど、足がないよねという、そういう嘆きの言葉を異口同音に聞くということがあるんですね。ですから、地域を活性化する中でも、運転手不足等の問題たくさんありますが、二次交通についてはどのようにお考えなのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

二次交通につきましては、議員おっしゃられるとおり、当市の観光の大きな課題だというふうに捉えております。拠点の駅から、やはり距離があるといったところが多いというところがございます。ここをどうカバーしていくのかというのは、非常に大きな課題だというふうに捉えております。親不知・市振方面につきましても、駅からやはり距離があると言ったところ、それぞれの観光コンテンツによって、お客様のニーズが変わってくるかと思っております。そういったものを把握しながら、その観光コンテンツに合う二次交通というものを模索していきたいと、検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

1番目の市長が掲げる目指すまちづくりについては、これで終わりたいと思います。

次に、2のマイナ保険証に係る現状と課題についてです。

マイナ保険証のトラブルは、全国的に多岐にわたっていて、有効期限切れが顕著で、今年度には、全国では2,760万件ぐらいのマイナナンバーカードの電子証明書の更新が必要となるために、その更新に関わるトラブルが増加されるのではないかという、そういう懸念が持たれています。同様に、当市においても十分な注意が必要だとは思いますが、当市においてはどのような状況になっていますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小竹市民課長。〔市民課長 小竹貴志君登壇〕

○市民課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

電子証明書の有効期限切れを防ぐため、国の機関から3か月ほど前に案内文書が発送される仕組

みとなっております。案内が届きましたら、速やかに更新手続を取っていただきたいと思いますと考えております。

市では、手続場所を拡充するため、更新手続を郵便局で行えるよう準備を進めております。手続場所が増えることで、市民の利便性の向上と市役所の窓口の混雑の緩和が図られ、トラブルの防止にもつながるものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

今年度予算審査のときにも、郵便局でのそういう手続の予算が計上されていたかと思いますが、郵便局は、地域至るところにあるので、高齢者の方も歩いていかれることもできるかなというふうに思いますので、これマイナンバーカードの期限切れは非常に大きな問題になりますから、仮に切れて、もう一回更新しようとする、またかなりの再交付というか、そういうのに時間がかかりますので、ケアのほどをしっかりとお願いしたいと思います。

そのほかに、カードリーダーの不具合とか、住所や名前が文字化けしてしまうとか、高齢者のITリテラシー、あと、これはどうしようもないですけどシステム障害がトラブルとして上げられてるんですけど、当市においては、そのような情報とか報告はなされているのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

先ほど市長答弁にもございましたが、カードリーダーの有効期限切れによるエラー、読み取り不能のエラーですね、そういったものもございますし、氏名等の文字化け等の報告もなされておりますが、それ以外については、特にご報告いただいている案件はございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

今、林課長のほうから、カードリーダーの読み取りエラーとか文字化けの情報ということでしたが、それに対して、行政としての対応はどのようにされているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まず、有効期限切れのものにつきましては、実際かざしたときにそのような表示が出るんですけども、有効期限の、電子署名の有効期限を延ばすことに関しては、先ほどもお話ありましたが、市民課の窓口のほうで手続を行っていただくようにご案内をさせていただいております。

文字化けの案件につきましては、実際、マイナンバーカード、マイナ保険証には正しく表記がされています。文字化けになる事例というのは、氏名等で旧漢字をお使いになっている方が、正しくカードリーダーのほうに出てこない、黒丸で表示されてしまうというような事例でございまして、そのような方については、マイナンバーカード、マイナ保険証を見れば正しいものが表記されていますので、そこで確認ができるということで、特に問題にはなっていないということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

行政のほうに上がってくるものは、多分、数は少ないと思いますね。実際、マイナ保険証を使う医療機関で解決されているかというふうに思います。

以前もいろんな場面で、マイナ保険証をカードリーダーで読み込むときに、特に高齢者の方が戸惑っていると長蛇の列ができて、その列の中でのある人が、何やってんだよみたいな、そういう言葉での圧力とか、そういう場面に居合わせた市民の方から、糸魚川市内の医療機関のカードリーダーは、一律同じようにしてもらえんかいねというようなことを言われたこともあります。でも、もう導入してしまったものを、それは医療機関の負担になると思いますから、一律にしましょうとは言えないと思うんですが、もしね、そういう何ていうか、高齢者の方も困っておられると思うので、そういう現状もまた情報仕入れていただきたいというふうに思います。

結局、デジタル化の流れの中で、便利ではあるんだけど、結局は弱点といいますか、そういうような読み取りエラーとか文字化けとかというのが起きます。結局そういうようなトラブルの解決方法としてどのようなことをやってるかというのと、結局は、従来の健康保険証で資格確認を行うということがほとんどだというふうに聞いているんですよ。ですから、そのマイナ保険証が交付されると、資格確認のお知らせというのが一緒についてきますけど、その存在を知らない方が、市民の方に結構いらっしゃいます。特に高齢者も、おら、そんなもん知らんよというような、そういう声を聞くんですけど、当市としては、そういうことに対してどういうふうな対応をされているかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

一般的には、議員おっしゃるとおり、マイナ保険証を持ちの方には、資格情報のお知らせが届いているという状況でございますが、特別に後期高齢者医療の保険に加入の方については、今現在、資格情報のお知らせというのは出ておりませんで、皆さん、保険証または資格確認書をお持ちだと思っています。その両方を併せ持つことで、そういった非常時にも十分に対応できるものというふ

うに思っておりまして、その辺をしっかりとお知らせしていくことが大事だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

今、答弁ありましたように、結局2枚持ちというか、2枚、3枚持ち。この春導入されましたマイナ運転免許証ですかね、これも単体のものと、あと2枚持つとかというような、そういうシステムがあるんですけど、結局、政府は多額の税金を投入したけれども、結局トラブルがあると、アナログ的な部分に最終的には頼らざるを得ないと。じゃ、どうしてもそんな多額の税金を使うことになるのかという検証が、やっぱり必要ではないかと。地方自治体とか各自治体においても、そういうようなことをやっぱり国に声を届けるとかというような努力、姿勢というか、そういうのが必要だと思いますので、本当にデジタル化はね、便利だとは思いますが、いざトラブルが起きたら、そういうような弊害があるということをやはり逐一情報をつかんでいただければというふうに思います。

次に、資格確認書の交付・発送について、先ほど答弁ありましたけど、来月末で、紙の健康保険証が有効期限切れますよね。トラブルがないようにお願いしたいのは、これはもう山々ですが、ただ、自治体によっては、昨年の9月、僕、一般質問で、岩手県では33の自治体の4自治体ですけど、全員に配るという動きを紹介させてもらったんですよね。

ところが、この4月に入って、東京都の世田谷区と渋谷区、そこでもマイナ保険証の有無にかかわらず、国民健康保険加入者全員に資格確認書を交付するというニュースが流れてるんですよね。やはり発送時のトラブルを避けるためにも、全員に配ったほうがいいというふうに以前、提言させてもらったんですけど、本当は、厚労省はそういう指導をしてなくて、法律違反になるのかどうか分からないですけど、そういうような動きがあるんですが、糸魚川市においては、先ほど答弁にもちょっとあったと思うんですが、いま一度、どのように対応されるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

先ほども少し申し上げましたが、後期高齢者医療保険にご加入の皆様には、全員の方に資格確認書を4月中にお送りいたします。

国民健康保険加入の方につきましては、法的な規定がございますことから、全加入者への発送というのは考えておりませんで、行わないこととしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

ということになれば、厚労省の指導にのっとっていない自治体が、今後どうなるのかというのはちょっと動きを見なきゃいけないことになるとと思いますが、糸魚川市はそういう対応をしないということですね。

後は、郵便として多分発送されると思うんですけど、このたびちょっと残念ですが、日本郵便で不適切点呼の問題が発覚して、郵便事業にちょっと支障を来すというような、そういうことが報道されていますけれど、資格確認書の発送・送付について、問題は、支障はないもののでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

来月7月には、私ども市民部の中で、市民課の納税通知ですとか私どもの資格確認書、あと福祉事務所のほうの関係の介護保険料の関係、併せて5万通程度の郵便物が発送予定になっております。そんなところから、郵便局とも事前に打合せをして、7月中にしっかりと全家庭へお届けしていただくよう打合せをしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

資格確認書が届かないと無保険状態になりますので、医療機関を受けると、どんな状況であってても全額支払い、後で手続で戻ってくるという手間暇がかかりますので、ぜひそのところをお願いしたいと思います。

次に、3番目の大糸線についてです。

年々、コロナ禍以降、利用客数が増えているということですが、この点について数字、具体的な数字があれば、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

JR西日本が、毎年、糸魚川―南小谷駅間における輸送密度を発表しております。これによりますと、令和2年、コロナ禍でございますけども、50人に下がったところがございますけども、令和5年には110人という増加傾向になっております。また、令和6年につきましては、会議の中、まだ正式な発表はこれからになりますけども、JRのほうからは、前年比1.3倍から1.4倍という数字はお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

年々増加傾向にある大糸線ですけれども、昨年度は、大糸線と北陸新幹線の接続状況を鑑みて、大糸線増便バスが運行されました。当初の利用目標は3万人、新聞報道によると、実際には2万3,317人の利用ということで、利用率77.7%。7が3つ並ぶんでラッキーナンバーですけど、目標までにはまだ及んでいないということですが、これはやはり南小谷乗換えではなくて、白馬まで直通運行をした結果ということで理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

市長答弁でもお答えさせていただきましたけども、白馬までの直通運転を私どもは求めておりまして、それによる効果だというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

ということは、増便バスでの直接運行で効果を示せたということになると、バスのほうがいいんじゃないかということ、そういうふうに捉えられるかとは思われますが、それについていかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

鉄道では、糸魚川駅から南小谷駅までの間になってしまいます。これを鉄路で白馬まで直接乗り入れることができないかということは、ずっと糸魚川市のほうからもJRに対して要望をしてきました。

そういった中で、JRのほうでは、擦れ違い施設がないとか、そういったことで、なかなか増便をすることは難しいという回答の中で、今回バスによる増便というところで着手したものでございます。私どもの主張は、基本的には変わっておりませんので、バスによる直通運転で確実にニーズが増えたといったところ、これは、鉄路における白馬までの相互乗入れの運転でも同じことが言えるかと思いますので、ここについては、バスによって、その効果が示せたというところはあろうかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

あくまでも鉄路でということを確認させていただきました。やはりバスの輸送になると、北海道

がいい例ですが、やっぱり乗客数が少ない、バス路線に変換する、昨今の運転手不足等で、結局は減便、廃止になるという、そういう憂き目が、もう絵図として出来上がっているので、ぜひ大糸線存続のためにも、鉄道でつなぐということを根気強くお願いしたいというふうに思います。

次に、私も大糸線応援隊の一人なんですけど、なかなか情報が入ってこなかったりするんですけど、そういう応援隊同士の情報共有の機会というのはどれぐらいあるのか、もしお分かりでしたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

応援隊の情報交換の場というご質問でございますけども、これまでに大糸線応援隊のファンミーティングというものを2回開催しております。ここで培われましたネットワーク、情報交換のSNSなどを通じた情報交換ですね、こういったネットワークによりまして、昨年の11月、隊員の皆様によるイベントを開催していただいたという事例もございます。それぞれ隊員相互につながって情報交換をする中で、大糸線を盛り上げるために活動していただいているといった現状かというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

応援隊とか鉄道ファンの方が盛り上げてくださるのは分かってるんですけど、問題は、やはり沿線住民の方々とか糸魚川市民の方々が、参加するとか情報発信をしていただくと、さらに盛り上がると思うんですけど、その点についてはいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

沿線の皆様に対しましては、昨年度、私どものほうの活性化協議会のほうでやっておりますイベント助成というものをやっております。これは各地区ですとかグループ、団体単位で大糸線を使って小旅行ですとかレクリエーションみたいな形で出かけていただいたときに助成をさせていただいている制度なんですけども、昨年度は区長会にお邪魔して、各地区の区長会で増便バス運行しておりますということで、ぜひお出かけくださいというご案内をさせていただきました。そうしたところ、各区の行事として、大糸線の旅を楽しんでいただいたという事例が幾つかございます。今年度につきましては、増便バス、観光地にダイレクトに行く運行ルートになっておりますので、さらに使いやすくなっているというふうに感じております。本年度も周知に努めて、利用促進につながるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

行政のほうでも、例えばえちごトキめき鉄道沿線の住民の方にお手振りといって、ただ、列車通るだけですけど、乗ってる方に手を振るといような、そういうのを行政のほうからコマーシャルをするようなことがありましたけど。えちごトキめき鉄道の雪月花が、大糸線に乗り入れたときにも、それをコマーシャルすると、糸魚川駅はもちろんですけど、根知駅とか、なぜか市振駅折り返したんですけど、市振駅とか、もう当然、終点の南小谷駅ではお出迎えの人がちゃんと横断幕を持ったりしてといような、そういう行動が見られますので、まずは行政がといような活動を醸成するべくいような働きかけをして、後は民力といつか、民間の力に任せて盛り上げてもらといような、いようなチャートづくりといつか、いようなのをしていただくと、行政が全部丸抱えではなくていいかなと。行政の負担も少なくなるとい思いますので、いような形でいお願いしたいといふうにい思います。

次に、大糸線の情報発信として、糸魚川にはキハ52とC12蒸気機関車があるんですけど、キハ52は活躍してますが、C12はご存じのとおり、糸魚川小学校校地内に雨ざらしで置いてありますよね。これがやはり寄る年波といつか年々老朽化が進んで、車体の一部、あちこち、ぼろぼろ、ぼろぼろ金属片が落ちてきてる状況なんですよ。特に去年の能登半島地震のときに周辺住民の方から、これまたああいういようなでっかい地震があったら、いような蒸気機関車、大丈夫なもんかねといようなお声を聞きしました。

保存のためには莫大な費用がかかるのは重々承知で、想像に難くないことなんですけど、やはり安全面とかいようなことも考えると、やはり市の持ち物になってるかと思ふんですけど、今後どのように対応されていくのか、もしお考えがありましたら、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今ほど議員ご指摘のとおり、糸魚川小学校にありますC12SLパークに設置してあります蒸気機関車につきましては、車体の傷みが出てきているといことで、私どもも確認のほうをしてる状況でございます。今後につきましては、やはり修繕工事とか、あと維持管理費用がかかることを考慮いたしまして、庁内でも、このC12蒸気機関車の在り方とか、あと修繕方法等の検討を進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

ぜひいお願いします。今朝も、僕、議場に向かってくるときに、C12の前で松本ナンバーの車が止まって写真撮ってたりとい、いような光景も見ますので、全然人が訪れない場所ではないといことですから、特に訪れたときに、もし倒壊の危険性をはらんでいるものだとすると、また大き

な問題になりますので、ケアのほうをお願いしたいと思います。

次に、大糸線の生活路線と観光路線という、そういう観点でちょっと質問させていただきたいんですけど、質問では、もうこの際、観光路線というふうに位置づけたほうがいいんじゃないかというふうなふうに私は思います。朝・晩は、生活路線としてしっかり役割を果たしてもらって、日中は、観光路線としてというふうに思います。これまでいろいろ観光路線の視点というのはあると思うんですけど、結構、今まではアクセス路線としての役割が多かったですよね。南小谷まで特急あずさが来てる、その接続する糸魚川発の列車は、乗車率がいいというような。でも、残念ながらこの3月のダイヤ改正で、南小谷まで来てたのが、白馬止まりになってしまったんですね。

先日の大糸線活性化協議会でも、小谷村の中村村長は、もう一度、南小谷まで特急あずさをというふうに声高におっしゃっていました。でも一度断たれた線路というのを復活するというのは、非常に難しいことだとは思うんですけど、この際、そういう観点で、観光路線として、日中は、「ゆっくり行こうぜ大糸線」なんていうようなキャッチフレーズで、とろとろと南小谷まで行くような、そういうような路線に転換、これ難しいかもしれないんですけど、1つの提案として上げたいと思いますが、それについていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

ご提言ありがとうございます。地域の周辺、沿線で生活される方もいらっしゃいますし、そういった方の足を守りながらということはあるんですけど、やはり観光路線としての位置づけというのも非常に重要かと考えております。

沿線の魅力の磨き上げ、それから鉄道の旅の魅力を伝えるということも非常に重要なポイントかというふうに考えております。そういった点も含めまして、事業者とも連携しながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

やはり糸魚川駅が、結節点として大変大きな役割があるかと思うんですけど、単に通過点、アクセス路線として糸魚川駅で乗り換えているという現状は、糸魚川市民の一人としては、あるいは鉄道ファンとしても、ちょっと嘆かわしいかなと。やはり糸魚川市民としては、糸魚川に降り立ってもらって、糸魚川でいろいろ食べてもらったり、泊まってもらったりということを考えるんですけど、そういう点についてどのようにお考えなのか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

糸魚川駅につきましては、3つの路線が乗り入れる、ある意味ターミナル駅と言ってもいいかと思っております。路線を乗り換える場合に、一旦改札の外に出るという点は非常に有利であるというふうに捉えております。

先ほどのC12SLパークではございませんが、観光客が乗り換える時間に合わせて、目的地へと誘導する工夫が必要であると考えております。また、当市ならではの観光資源を最大限に活用しまして、最終的には経由地、議員ご指摘の単なる乗換え地点ではなく、目的地として多くの方に訪れていただいて、より長い時間とどまっていただいて、お金をたくさん使っていただけるように取組を進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。

○8番（和泉克彦君）

やはり糸魚川駅の結節点たる理由というか、そこをやっぱり最大限に生かすべきだとは思います。糸魚川駅の敷地内というのは、中にはジオパル、ジオステーションがありますし、結構この間も新潟市から来た人が、糸魚川駅の中にこんないいところがあるんだねなんて、小さな子供も遊ばせられるなんて、そういう何か楽しかったというような声を聞いたりします。やはり糸魚川駅周辺にもそういうような、いろんな観光客の方々を引きつけるような魅力ってたくさんあると思いますので、それをどんどん、どんどん発信していただければというふうに思います。

先ほどの、ゆっくり行こうぜ大糸線という、そういう視点になると、やはり運行ダイヤを大幅にいじらなければいけなくなるので、どうしてもJR西日本さんとか東日本さんとの協議が必要になってきて、そう簡単にはいかないと思うんですけど、引き続き連携を取りながらお願いしたいと思っています。

ただ、JRさんは、やはり常にお題目のように大量輸送というふうにおっしゃるんですよね。大都市部、例えば首都圏、関西圏であれば、大量輸送は可能なんですけど、これまでも、それ以前からも、地方路線というのは、そういう収益を上げるような路線ではなかったはずなんですよ。これをコロナが蔓延してしまったがために、そのコロナのために利用者数が減った理由づけとして、地方路線に乗ってないというような、何か論理のすり替えをされてるような気がしてならないんですよ。その部分も、やはり感情論になってしまうので、大量輸送を取っ払ってということはストレートには言えないというか、今言ってますけど、その部分をやっぱり地方路線の役割というのをやはり考えていただきたい。大量輸送であれば、新幹線でオーケーなんですよ。だけど地方路線はそういうわけにはいかない。それが、在来平行線たるゆえんでもあるわけですから、そういうようなところを、行政としてはつらいかと思いますが、いま一度お考えいただいて、関係各所に働きかけていただきたいというふうに思います。

最後にですが、先ほども申しましたが、ダイヤ改正で、南小谷までの特急あずさ号が、白馬までになってしまいました。ということは、糸魚川から東京、関東圏とか中京圏に向かうためには、かなりの所要時間を要することになったわけですよ。ですから、中村村長がおっしゃるのも無理もないことで、やはり、いま一度、南小谷へという、1本でもいいですからそういう乗客、利用者の数を増やすための方策というか、切実な思いだと思うんですよね。ですから糸魚川もそういう形

で連携は取ってますけど、やはり糸魚川の事情をしっかりと共有していただいて、大糸線を盛り上げていただきたいと思います。そして、先ほども質問の中でもありましたけど、市民の方に盛り上げてもらうということ、国への国策としての路線だということを働きかけてください。

以上で終わります。

○議長（古畑浩一君）

和泉議員の質問が終了いたしました。

ここで、14時10分まで休憩といたします。

〈午後2時01分 休憩〉

〈午後2時10分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

引き続き、一般質問を行います。

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。〔6番 利根川 正君登壇〕

○6番（利根川 正君）

利根川 正です。1回目の質問をお願いします。

1、久保田市長の重点政策について。

5つの重点政策と縮充について、お伺いします。

(1) 久保田市長の基本理念には、市民の声で新しい糸魚川をつくる。その重点政策として、第一に医療、福祉を上げられています。

糸魚川市の医療体制を守り、糸魚川総合病院や地域医療施設の維持強化を固くする、新潟県の広域医療方針に符合しながら、安心できる医療を確保するとありますが、以下の点について伺います。

① 糸魚川市の医療体制をどのように考えているか。

② J A新潟厚生連糸魚川総合病院について、どのように考えているか。

③ 県の地域医療構想は、医師も施設も拠点化するとしているが、糸魚川市において、救急医療体制をどのように考えているか。

④ 福祉において、施設の維持と介護福祉士の減少をどのように考えているか伺います。

(2) 重点政策の第二に上げている教育で、子供たちが学びやすい環境を整え、学校再編や部活動の地域展開を推進し、少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制を構築するとありますが、以下伺います。

① 学校再編で小学校をどのように考えているか。

② 保育園の民営化について、考えを伺います。

- ③ 部活動の地域移行についての考えを伺います。
 - ④ 少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制の構築とは、具体的にどのようなことか伺います。
 - ⑤ 駅北子育て支援複合施設建設の見直しとは、市民は中身を見直すと思っている方と、建設自体を見直してそこには建てないと思う方がいるが、市長の考えを伺います。
 - ⑥ 建物ができるまで、固定化した子育て支援センターの仮施設を造るべきと思いますが、市長の考えを伺います。
- (3) 重点政策の第三に上げている経済活性化で、第一次産業を基盤として、地域資源を最大限に活用して経済を活性化する、また観光資源の整備や、ふるさと納税の活用により、特定資金源を確保しますとありますが、以下伺います。
- ① 第一次産業で農業、林業、水産業が糸魚川の代表ですが、どのように活性化していく考えか。
 - ② 特に今米が深刻な問題となっており、高齢者や子育て世帯は、安い米が手に入らない現状で、市として対策を打てないか。
 - ③ 観光資源の整備とは、具体的にどのようなことを言うのか。
 - ④ ふるさと納税の活用により、特定資金源の確保とありますが、強化が必要と考えます。特に米の販売が全国で好調で、糸魚川市も契約して在庫を確保してもらいたい、考えを伺います。
- (4) 重点政策の第4に上げている地域の特徴を生かすでは、糸魚川市の3地域を中心に、観光資源や伝統文化を活用して発展させ、宿場町としての歴史を引き出しながら、交流人口の増加を目指すとありますが、以下伺います。
- ① 糸魚川では新幹線、えちごトキめき鉄道、大糸線の活用によるにぎわいの創出とありますが、どのような考えがあるか。
 - ② 地元経済界の地力アップと観光資源の最大化を通じた交流人口の増加とありますが、具体的にどのように増加させるのか。
 - ③ 美山周辺の再開発や塩漬け状態の施設の最適化とありますが、美山の再開発はどのような構想を持っているのか、また、塩漬け施設とは、どこの施設で、どうする考えか。
 - ④ 能生では相撲のまち、水産のまちとしてのブランド拡張を掲げていますが、具体的な考えはあるのか。
 - ⑤ 力士育成と交流の場を提供する新施設の構想とありますが、建物を建設するのか伺います。
 - ⑥ 青海ではピアパークや親不知を中心とした観光資源の充実を上げていますが、どのような考えでいるか。
 - ⑦ 産業のまちとしての機能充実とありますが、具体的にどのように充実するのか。
- (5) 重点政策の第5に挙げている災害対応と安全で、防災対策を強化し、災害時の相互支援体制を実現、地域の連携を深め、安全で安心できる地域を構築しますとありますが、各災害に対してどのような考えをお持ちか伺います。
- ① (仮称) 上越・糸魚川沖地震では、どのような被害を想定して対応するのか伺います。

- ② 先月、姫川・関川総合水防演習がありましたが、水害等の対策について考えを伺います。
- ③ 災害時の相互支援体制の実現とありますが、具体的な支援体制を伺います。
- (6) まちづくりの新しい概念、「縮充」について。
- 縮小と充実から説明されていますが、その進め方について伺います。
- ① 権現荘は民営化となりましたが、長者温泉ゆとり館について民営化を進められないか伺います。
- ② 市内に2つのスキー場がありますが、シーサイドバレースキー場の老朽化が見られます。今後を見据えた考えはあるか伺います。
- ③ 糸魚川市教育相談センターの改修検討は進んでいるか伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

利根川議員の質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、市医師会などの関係機関と連携し、一次・二次救急医療体制をはじめとした医療提供体制が確保できているものと捉えております。

2つ目につきましては、市内唯一の総合病院として急性期医療を担うとともに、回復期、慢性期、在宅医療まで幅広く市民を支える、なくてはならない病院であると考えております。

3つ目につきましては、当市の地理的条件から、今後も、市内で一定程度完結できる救急医療体制の確保が必要であると考えております。

4つ目につきましては、施設の維持や職員の確保を図ることにより、市民が安心して暮らしていくための体制確保に努めてまいります。

2点目の1つ目につきましては、子供たちの教育環境が、よりよくなるような学校の在り方の構想案を検討する中で、今後の方針を示してまいります。

2つ目につきましては、昨年度定めた「保育園等の適正配置と民営化に関する方針」に基づき、取り組んでまいります。

3つ目につきましては、社会教育団体及び学校部活動が連携し、将来にわたり、子供たちがスポーツ・文化芸術活動に取り組んでいける体制づくりを進めております。

4つ目につきましては、子供たちの学びや成長を第一に考え、中学校区単位を核として教育力を高め、その地域の専門的知見を持つ人材や企業の参画を取り入れることにより、質の高い教育環境の整備を進めてまいります。

5つ目につきましては、現計画での建物建設は中止し、汎用性のある利活用案を再検討いたします。

6つ目につきましては、屋内遊戯施設は必要であると捉えており、既存施設の利用を含めて、早急に実現したいと考えております。

3点目の1つ目につきましては、生産基盤の整備促進やスマート技術の導入など、生産性向上の取組を支援し、所得の向上と担い手の確保を図ってまいります。

2つ目につきましては、関係機関との情報共有を図りながら、国の動向を注視してまいります。

3つ目につきましては、観光資源の掘り起こしや磨き上げを行うとともに、観光事業者とのつながりを強化し、「訪れる観光・稼げる観光」を推進してまいります。

4つ目につきましては、生産者の皆様と協議してまいります。

4点目の1つ目につきましては、周辺観光地との連携を図りながら、雪月花やラッピング列車など、鉄道を観光コンテンツの一つとして捉え、誘客拡大に努めてまいります。

また、ターミナル駅の機能として、駅周辺観光の充実や二次交通の確保を図ってまいります。

2つ目につきましては、事業者間連携など企業の新たなチャレンジが従業員や顧客満足度を高め、地元地域や経済の持続的な発展に寄与するものと捉えております。

あわせて、観光資源の掘り起こしや磨き上げなど、地域の魅力やポテンシャルを最大限に引き出すことが交流人口の増加につながるものと考えております。

3つ目につきましては、美山公園のポテンシャルを生かし、人が集うための機能面の再開発を進め、にぎわいを創出してまいります。

また、長期間未利用の状態にある公共施設については、民間等への売却や貸付などを進めてまいります。

4つ目につきましては、ベニズワイガニやアンコウなどの魚介類を中心とした水産のまちとしてブラッシュアップするとともに、相撲のまちとも関連づけて、さらに拡充してまいります。

5つ目につきましては、施設の構想について、関係団体と意見交換してまいります。

6つ目につきましては、ピアパーク施設の計画的な更新やイベントの充実などにより、全国的にも知名度のある親不知の活用を図ってまいります。

7つ目につきましては、地域経済の基盤を支える重要な機能として、企業における既存事業の発展や新たな取組への支援等、経済活動の推進、充実を図ってまいります。

5点目の1つ目につきましては、県の地震被害想定調査によると、建物は上越地域全体で5万棟以上が全壊するとされていることから、地域防災計画に基づき、災害予防と災害応急対策を進めてまいります。

2つ目につきましては、河川の改修、治水施設の整備、緊急時の住民への情報提供、防災気象情報を活用した早めの行動などが重要と考えております。

3つ目につきましては、他の地方公共団体と相互に連携、協力し、速やかな災害対応に努めております。

6点目の1つ目につきましては、地元住民や現在の委託先事業者の意向を確認しながら、まずは、採算性を考える中で健全な運営となるよう努めてまいります。

2つ目につきましては、在り方について検討を進めてきており、今後、関係事業者と協議を進めてまいります。

3つ目につきましては、別施設への移転も含めて検討を進めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

2回目の質問をお願いしたいと思います。

まず、医療についての現状なんですけど、日本の病院の約7割が赤字で、年々増えております。全国1,700の病院で、去年6月から11月の経営状況によると、2年に1回の見直しの診療報酬は、2024年度では0.12%の引下げによる減。また、物価高での支出が増えており、2023年6月から11月、2024年の6月から11月の比較で、医療材料費が4.4%の増、それから人件費で4.3%の増、それから受託費で4.3%の増となっており、やはり厳しい状況が分かります。

また近年、緊急救急患者が、特に高齢者の方が多く、独り暮らしの方、また、持病のお持ちの方、退院できず高齢のため、手術もできない状況になっております。病院側も収益的には厳しく、入院も日数がかかるため、日数が増すごとに報酬が下がり、経営が難しくなっているという状況になっております。政府も今後、高齢化施設の併用も考えているようですが、まず、仕組みを変えていかなくてはならないと思いますし、高齢化社会を迎え、広い医療圏で自治体の枠を超えて協力し合い、また、新しいスタイルで、これまでの仕組みや慣習を見直して、病院同士の経営協力は大切になると思います。

そこで、まず、久保田市長に医療・福祉の考え方をお聞きしたいんですが、①の糸魚川市の医療体制ですね、今後、診療所、個人病院がありますが、特に開業医ですね、開業医の方で年齢的に高齢化している方がおられます。令和4年で、70歳以上の方が3名おられました。それから令和9年には11名になり、閉院していくところもあります。今後10年、20年先を見通したときに、医療体制をどのように見ているか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

市内の開業医の先生方の年齢のことにつきましては、以前からも問題視をさせていただいておりまして、これからどんどん閉院が進んでいくのは、目に見えている状況でございます。

そんな中で、その状況をどう打開するかということになると、やはり糸魚川総合病院が今以上に必要になってきて、かかりつけ医機能を担っていただく。私ども、市のほうで直営で運営しております国保診療所においても、さらに今以上の診療体制が必要になってくるということを想定しておりまして、さらには、10年後、20年後を見据えた中では、都会の医師の方とオンラインでつなぐオンライン診療みたいなものの導入も検討していかなければいけないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

しっかりした10年後、20年後の医療体制を確保していくように計画してもらいたいと思います。

それから次に、2番の厚生連糸魚川総合病院が担っていくということで、しかし今、大変な赤字を抱えております。主な原因として、人口減少、受診行動の変化、また、診療報酬の改定による患者数の減少、それから報酬の引下げが、特に大きく影響しております。糸魚川市も財政支援をし、県と一緒に実施しましたが、その後の糸魚川市の糸魚川総合病院の改善が進んでいるか、ちょっとお伺いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まず、以前にずっとお答えしてきておりますが、今現在、厚生連ばかりではなくて、県立病院であったり、先日、新潟市内の新潟市民病院の経営状況も新聞報道されておりました。非常に医療機関の経営状況というのは、最悪に悪くなっております。

それで、その中で厚生連が特別悪いわけではなくて、医療機関の収支全体が悪くなっている状況でございまして、その中で糸魚川総合病院につきましては、JA新潟厚生連が、本部が中心となって、全体の経営の見直しを行うとともに、糸魚川総合病院は独自で、また改善を図っていただいておりますし、その内容については、私どもと随時、協議をしていただきながら進めていただいている状況でございまして、現在進行形で進んでいる状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

糸魚川総合病院の経営改善の中で上げられている長期的対策として、運営主体の在り方、行政と協議があり、その中で指定管理移行と運営の見直しなどの内容の話がありますが、この話合いは進んでいるか、どうなっているか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

指定管理ということですが、結局、公設化をしてということになります。それで、その考え方については、全くないわけではなくて、運営主体がどうなるかということは考えていかなければいけないと思っています。今現在は、JA新潟厚生連が糸魚川総合病院を運営していただいておりますので、まずは、その運営を支えることを市としてやらせていただいておりますし、将来的にそれ

が立ち行かなくなるということを想定した場合に、公設化して、指定管理に移行していくということも並行して検討していかなければいけない問題だというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

両方の面で、絶対なくならせないようにお願いしたいというふうに思っております。

それから、もう一つ、3番目の県の医療構想ですね、同じく県立病院も令和6年度決算では、全体として46億円の赤字、当初の見込みより、さらに2.7億円の悪化となりました。上越市の中央病院では3億3,000万の赤字、令和7年度以降の内部留保の枯渇のおそれもあり、7年度は26億円の改善が必要で、8年度には、さらに16億円の改善が必要となる見通しが出ております。大変厳しい状況の中、昨年度、話合いがスタートしました上越医療圏の中期再編素案議論は、前に進んでいけるのか。また、これが合意できるのか、その辺を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

中期再編の議論につきましては、上越圏域の中核病院をどこにするという方向性を定めるということが、前年度の末に示される予定でございましたが、県の意向で先延ばしとなっておりまして、今年の秋にその方向性を出し、年度末には様々な調整を経て、公表したいというスケジュール感になっております。

そんな中で、それが本当にまとめられるのかということだと思うんですけども、今現在、県立病院の経営状況が、こないだ示された、先ほど議員おっしゃったとおり、マイナス46億円ですかね、赤字ということでございまして、かなり知事のほうもそこに危機感を持っておられて、この圏域でいいますと県立中央病院が、地域の3次救急を担っていただいているわけなので、そこをどう運営していくのかというところが非常に大きな争点になっていくと思われまして。そんなところを調整しながら、何とか早期に方向性を見いだしていただきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

中央病院が、緊急の一番この上越では大事な病院と思っていますので、その辺の進め方を、ぜひ前に進めていってもらいたいというふうに思っております。

それから、次の4番目の福祉において、市内の特別養護老人ホームの運営状況ですが、大変厳しい状況になっております。職員の給与や最低賃金のアップしたにもかかわらず、この物価高に見合

った報酬になっておらず、人件費を含め、支出が増大している状況です。さらに、職員の年齢構成が上がっており、また、新人が入らない施設も今回ありました。市としても今後のために、人材の確保、またさらに施設の支援をお願いしたいのですが、その市のお考えをお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

まず、人材確保というところでございますけれども、市では様々な事業を行っております。例として、修学資金の貸与、介護職員への応援メッセージ、あとは資格取得や研修の補助、それらに加えまして、中学校への出張授業ということも行っております。こういった事業につきまして、有効に活用していただけるようにしっかりと周知をしまして、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

もう一つの施設の支援という部分でございますけれども、こちらのほうは、緊急措置ということで、国の補正予算による物価高騰対策事業、こちらのほう、国と県、市のほうでそれぞれメニューを持っておりまして、取り組んでいるところなんですけれども、こういった取組に比して、物価高、そして人件費の高騰等が非常にスピーディーでありまして、なかなか報酬改定も含めて追いつかないというような状況がございます。

そういった状況の中から、私どもとしましては、抜本的な介護報酬の改定というものが要というふうに考えておりまして、国・県のほうに要望というところで、主に市長会等を通じまして要望活動を続けてまいっておるようなところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

少し補足をして、お答えさせていただきます。

診療報酬につきましては2年に1回、それから介護報酬については3年に1回ということで、公定価格ということで国のほうで単価を定められるわけですが、これに比して、やはり今、物価高騰ですとか人件費の部分が上がって、このままですと本当に経営が苦しくなる病院や介護施設、それから場合によっては破綻してしまう施設もあるかもしれません。

そういったことで、この2年、3年待っては、やはり駄目だということで、糸魚川市のほうからも緊急要望として、緊急に改定できるような報酬をお願いしたいということで、新潟県の市長会のほうに出しまして、これが今、北信越市長会のほうに上がっております。恐らく、ほかの自治体も同じような状況で要望されている部分もあるかと思うので、これは国に上がっていくことになると思います。そういった中で、私ども、またこの部分を強く国のほうに改めて要望する中で、医療・福祉を守っていききたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

前回も市民厚生常任委員会のほうでも、特別養護老人ホームの件もありました。その中で2社が厳しい状況、かなり厳しい状況と聞いておりますので、ぜひ早めの対応を国・県にお願いしたいというふうに思います。

医療・福祉の最後になりますが、市民の方で健康で医療機関にかからないことが一番と思います。市も昨年3月に第3次健康いといがわ21が作成され、5月に概要版が配付されました。地域社会全体で健康づくりについて取り組み、健康寿命の延伸と不健康期間の短縮を目標として、そのきっかけづくりが必要だと思います。市でも進めてもらいたいというふうに思っております。

それから、また同じく県も県民健康づくりに向けた計画改定、全ての世代が生き生きと暮らせることができる健康立県を目指し、健康寿命を延ばすことを勧めています。ぜひ健康診断、また、健康診断のその後の2次検診の確実な診断を進めてもらいたいというふうに思っております。食生活の改善、歩く運動をぜひ市も一緒になって進めてもらいたいというふうに思います。よろしくお願いします。

次に、教育です。

まず、市長にお聞きしたいんですが、①の小学校再編で、今現在、私どもの学校区の中でもそうなんですが、複式学級の小学校があります。こちらの学級は、二つの学級を併せて16人以下となる場合、編成した学級を一つの教室で1人の先生から同時に授業を受け、一方が受けている間、もう一方の学年は自主課題をする。担任が2つの学年の授業を行うことができないので、児童の学習理解では分かりづらかったり、授業中の様子が把握できなかったりすることもあります。

また、5月にもありましたが、運動会、また音楽会などは、種目等の制約が出てきたり、評価が固定化されたり、さらに親のPTA活動では負担が大きくなっている、今現状になっております。

今後、私の考えなんですが、小規模校は、小中一貫校に向けて進めるべきだというふうに思っております。義務教育の9年を、児童生徒、学校、地域の実情を踏まえた上、具体的な取組内容で質を高めることができると思います。

県内では、特色ある学校も出てきており、湯沢町にある湯沢学園が、同一施設で保育園、小学校、中学校の一貫教育を行っております。こちらは、県外、それから海外からも入学者がいる現状で、それこそ0歳から18歳までの一貫教育にふさわしいというふうに思っております。これを踏まえて、市長のお考えをお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

ご指摘にありましたように、複式学級の学校というのは、糸魚川市にかなり数がございます。そ

ういった中で、ご指摘のような点があることは否めないかと思っております。

ただ、複式学級の学校でも、様々な工夫により、充実した教育活動が行われているというふうに認識しております。

ただ今後、学校の在り方の検討をしていく中で、ご指摘にありましたような小中一貫校も視野に含めて、今後、検討していきたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

再編もあれですね、検討していきたいという考えなんですけど、どの辺、何年度ぐらいを目安にやっていきたいというふうに思っているのか、その辺ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

年度につきましては、明確にこの年度までというところについては、まだ決まっておりません。今後、議論を進めていく中で様々な要素を考慮しながら、検討していきたいというふうに考えておるところです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

能生の現状を言いますと、能生小、かなり老朽化しております。見てのとおり、外壁もかなり汚れておりますし、前回の地震で一部使えないところもあるというふうに思います。

それから、私どもの中能生小学校も、壁がひびが入ってたりしておりますので、その辺を考えた上、また、生徒の人数もかなり少なくなっております。次に述べますが、人数の問題もありますし、その辺早急にやっぱり考えて、計画立ててもらわないと、親御さんたちも不安でしようがなく思っておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

次に、教育長にお聞きしたいんですが、学校再編で第3次糸魚川総合計画、令和4年から令和10年では、学校の最適配置・方針を検討するとありますが、少子化により児童生徒の減少は進んで、令和5年度の資料では、今後、令和7年から令和10年では1,964人、約、今の300人近い人数の減となります。小学校の適正規模・適正配置が早急に求められますし、これまで地域と共に進めていくと聞いておりましたが、地域も大事なんですが、地域と連動した活動を通じて、放課後だけ、移動した場合、一緒になった場合、空いた校舎で放課後だけ宿題、予習・復習、また運動できる場所として見守り、地域の方が見守り、保護者が安心して働くことのできる環境として、空き校舎を使用して、お互いよい環境になると思いますが、教育長の考え、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

 蘆本教育長。 〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

 お答えいたします。

 子供たちの学ぶ環境、大変大事でございまして、より質の高い糸魚川市らしい教育の在り方、学校の在り方について、昨年度から鋭意努力しながら熟議を重ねています。その最中でございますけれども、今ほど議員さんおっしゃったような形でもって、保護者の心配度、あるいは子供はこの環境でいいのかというふうな部分のところも、相当私どもも、事務局として危機感を持ちながら、真剣に今検討中でございます。

 そして、今ほどご指摘のありましたように、並行して、一つの学校に行ったとして、その空いた学校をどういうふうにご利用するのかというふうなご指摘だろうというふうに思ってます。

 学校というのは、地域にとってやっぱりいろんな機能を持った環境でございます。特に子供たちの学びであり、防災の拠点であり、あるいは人が集う、そして交流するという多機能のものを持っているのが学校です。ですから、地域のよりどころ、地域コミュニティのよりどころが学校でございます。例えば事情があって閉校したという形になってきますという、その空き学校を地域として、地域のコミュニティとして、どういうふうにご利用していくのかということが、やっぱり学校整備、再配置の検討と同時にこれは考えていかなきゃいけないというふうな大事な課題だと思います。ですから、今ほど学校の再編につきましても、熟議を重ねていきますけれども、これは、ある程度のビジョンができた段階で、その空き校舎の活用についても、地域の皆さん方と、やっぱり地域ぐるみで考えていくというふうな部分の中に、今ほどの具体的な子供たちが学校から帰ってきたときに、地域のよりどころだった学校の一部を利用して、遊んだり学習したり、夕方までそこに安心していただけるという場所づくりみたいなものについても、やっぱりこれは地域の皆さん方との合意形成の中で、そういった部分の在り方というふうな部分のところは整理されていくんだろうというふうに思ってます。大変ご貴重なご意見だろうというふうに私は思ってます。

 以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

 利根川議員。

○6番（利根川 正君）

 ぜひとも早急にお願いしたいというふうに思います。よろしくお願いします。

 次に、2の保育園の問題です。

 少子化は、推計より15年も早くなっております。先月、2024年度の統計結果が出ましたが、市の保育園の公立民営化適正配置について、行政と保育園、保護者との懇談会を実施して、民営化に関するサウンディング市場調査を実施しました。7年度中にモデル園を決めたい方向でいると思いますが、スケジュール的にどのように進んでいるかをお伺いしたいというふうに思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

昨年末に園の適正配置と民営化に関する方針ということで、議会のほうにもお示しをする中で定めさせていただきました。その後の取組といたしまして、保護者懇談会ということで1月から始めさせていただきまして、全ての公立園の保護者を対象に、また、私立園のほうもご希望のあった園を対象にということで、大半の園からご希望いただいたんですが、ご説明をさせていただきまして、この5月までの間で実施をさせていただいているところでございます。

また、公立園の保育士に対しても、現状の説明等をさせていただいているといったところでございます。

あと一方で、2月には、公立園の民営化に当たりまして、運営を引き受けていただけるかどうかということのサウンディング調査も実施をさせていただいたところでございます。3つの法人、3つの、3者の方からお問合せをいただきまして、意見交換等もさせていただきました。

そういった状況を踏まえて、今年度は、民営化を実施する園のほうを明示させていただきまして、運営事業者の募集ですとか、そういった説明に入っていきたいというふうに考えているところでございまして、本定例会の所管の常任委員会のほうにもこういった状況はご説明をさせていただく中で、取組を進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

ぜひともよろしくお願いします。

今現在、小規模園の保育園では、運営に関する保育に支障が来するような状況であり、保育士、また看護師、また確保が難しくなっております。特に最近、特別に支援がいる園児などが増えてきております。現状をよく見てもらい、対策をお願いしたいというふうに思います。よろしくお願いします。

次に、部活動の地域移行の件ですね。

少子化が進む中、今後、部活動の集約化が求められていますし、何といたっても送迎の確立が大事だと思っております。それから、指導者として、公務員の副業による支援も進めていかなくてはならないと思いますが、この部活動の地域移行の考えをもう一度お伺いしたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

部活動の地域移行につきましては、様々な問題がございます。活動場所、送迎手段、指導者の確

保も大きな問題の一つと捉えております。これらの課題につきましては、外部委員で組織します部活動の地域移行に係る検討委員会のご意見も聞きながら、今後、検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

この検討は、25年度中で決めるというふうな考えでよろしいのでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

今年度、令和7年度までが準備期間ということで、来年度、令和8年度からは、休日のみ実施ということを目指しております。最終的には、令和11年から休日及び平日を含めた中での完全なる地域移行を予定しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

ありがとうございました。

次に、④の質の高い教育体制。

市長は、校長だった立場から、市内の3校、3つの高校に中学生が卒業して、進学してもらうためにはどうしたらいいか、考えがあればお聞かせください。今現在、上越の高校や私立高校へ行っている状況がかなり目立っておりますので、糸魚川に入学してもらうためには、どのようにしたらいいか、市長の考えをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

冒頭申しましたとおり、まず、中学校区単位の、まず、今4つの中学校区があるんですが、そこからやっぱり市内の高校に入学できるような流れをつくるという部分においては、努力目標としては相当高い目標になると思います。キャリアフェスティバル等で中学校の意識醸成をしておりますけども、逆に言えば、今、利根川議員ご指摘のように、高校にその魅力を感じなければ、やっぱり市外に流れていきますので、まず、その魅力ある高校づくりをしなければならない。やっぱりまず、今現在ある3高校についての魅力づくりについては、海洋高校については、当時からも魅力ある高校づくりで県外からの入学生が多い。ただ、市内の入学生が少ない。そういう逆のパターンもあります。

糸魚川高校と糸魚川白嶺高校については、やっぱり地元志向の生徒が入学してきている中において、今度はじゃ、地元志向の生徒たちの、まず学力の向上を考えなきゃいけない。今、先ほどから問題になっている医療人材に進学できるようなカリキュラムづくりをしなければならない。そのためには、さらに進めていくためには、やっぱり再編の問題も必ず出てくると思います。再編の問題があったときに、何を考えなきゃならんのかというと、やっぱり海洋高校のように、全国から募集できるような入学制度を県教育委員会にやっぱりつなげていかなきゃならない。それも一つの材料だと思います。それで、県外からの入学生が若干出てくると、やっぱり市内の生徒たちも、それならば自分たちがという思いを持ってくる。それでモチベーションを高めていくということも大事なことだと思います。

今、3高校は、本当に特色ある学校づくり、学校の教育魅力化コーディネーターを入れて、対応しています。まだまだそれが実になっていない部分も幾つかあると思うんですけども、それなりの努力を通じて、今現在、徐々にそういう傾向は高まってきております。

ところが、糸魚川白嶺高校においては、地元企業とのタイアップによって、できる限り地元企業との連携を深めていくという部分もしっかりと取り組んでいる。それと防災教育も取り組んでいる。地域の実態に合わせたカリキュラムを組めることによって、徐々に魅力が高まっていくものと思っています。

そういう中で、3高校の、これからますます我々が関与していくということも必要になってくると思いますので、そこに、できる限り入学生を多くしていく。そして盛り上げていくということをやっていききたいなと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

3高校の中で白嶺高校が、入学が下回った、倍率が下回っていることで、今年もなっておりますが、何としても倍率上げてもらうように市内の方を中心に入学してもらうように働きかけてもらいたいというふうに思います。

次に、⑤の駅北子育て支援複合施設です。

市長言われましたが、建設を見送ることとするということを発表されました。この計画の基本理念には、ひとみかがやく 子と親が遊んで学べる場所、糸魚川大火から復興を見据えた中心街ににぎわいをつくり、駅北地区において遊びと学びの場を、また、活動する場、子供がわくわくする遊び場、親が安心して気軽に交流できる場所、多世代の地域交流の場づくりとして、目指しますとあります。

ここには、子育て支援センター、交流のきっかけや悩み相談ができる場所、また、プレイルーム、遊戯場、安心して子供が遊べる場所、市民ギャラリー、学習スペース、図書コーナー、会議室が予定されておりました。令和2年、駅北まちづくり戦略策定から始まり、先月の令和7年5月まで、それに向かって多くの方が動いてまいりました。期待していた方もいました。子育て世代、祖父母、保育園の方々、高校生、それぞれの思いがあり、ここまで来ましたが、また、市の職員も大変苦労

されてきたと思います。今回、見送りは本当に大きな決断だと思います。今後、見送ることとした説明が早急に求められると思いますが、市長、考え、早急に説明ができるか。市長の考えをお伺いしたいと思います。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

先ほど保坂議員のときにもお答えしましたとおり、まず、汎用性の高いという部分から、再整備の計画を持っていくのと、今、利根川議員がおっしゃったように、多世代というようなニュアンスになると、やっぱり当初のまちづくりと連結しなきゃならない。

ただ、あの部分の中で多世代まで求めていくと、相当機能的には、多くの機能が入らないといけない。今、ゼロ歳から18歳までのニーズを持っていくと、あそこにすごくいろんな要素を持ったものを入れなきゃいけないんですけども、多分その機能まで全部網羅できるというふうな計画ではないというふうに判断しております。そのためには、見直して、再計画の中においてそういうものを、駅北の中に分散をして置くとか、流動性を生かすとかという汎用性のある拠点にしていくということ考えた中で対応していくという部分、そういう意味合いを持って申し上げているというふうに、私自身考えているんですけども。いわゆる一つの子育て支援、ゼロ歳から小学校入学までとは別に切り離していくのであれば、それ相応の機能が、複合的な部分が必要になってくるだろうというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

保坂議員の質問にちょっとかぶるんですが、市長は、解体後、解体は進めなくてはならないというふうに思っております。解体後、そこに新たに建てる予定なのか、建物を建てる予定なのか、その辺ははっきり分かるでしょうか。考えは、もうお持ちでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、解体というものを最優先にしておいて、その空いた部分において、まず一旦、解体した跡地についての、やっぱりよりどころのある汎用性の高いものとしての土地活用を考えていきたい。別途計画において、そういう建築物が必要な場合には、そういうものを次の、別の事業立てをして、やっぱり計画しなければならないというふうに思っています。それにはいろんな、これから早急に進めていく、やっぱり今必要な子育て世代の皆さんへの提供できる既存施設を利用する中において、

いろんなものを考えながら、さらにそういう施設が必要であれば、それを持ってやっぱり計画していかなきゃいけないというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

これもまた、保坂議員の質問のあれなんですけど、市長は、まず、DBO方式を見直すと言われました。それで、地域が受け入れられるためには、市長は、クリニックの機能を持っているやつを入れたらよい。また商業施設を入れる。また産後ケアの重度心身障害者の方が入れる場所を入れるとか、それでしたら考えられるということでありましたが、逆に、その施設が可能であった場合には、今後、建てる、駅北になるんですが、建てる予定はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

先ほどの答弁において言えば、例えばという形でお話ししたと思います、例えばという形で。例えばそういうクリニックを入れるということは、要は産後ケアの問題から、次のやっぱり幼児保育の問題、いろんな多様化している生徒をそこで面倒を、観察できる、診断できるというふうな機能が持ち備えていれば、そういう、ゼロ歳からの部分からスタートできる。スタートアップできるという部分で、例えばということでお話しさせていただきました。

ただ、例えばの話で進めるとなると、ドクターまでとなると、先の今度交渉が、また別途絡んできますので、非常に難題を持ってやる。ただ、できない理由を持って進みたくない。できる限り可能になるように持っていきたい。やっぱり人、物、そして金というものがセットになって施設というのはあるもんですから、そういう部分は無視できないものでありますので、例えばの話の中で出てきた部分でご理解をしていただきたい。

ただ、やっぱり理想的な部分もありますので、いろんな保護者、本当の利用している子供たちのニーズ、そういうものはきちんと聞き取りをしていくための移行処置、施行していくということをトライしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

次に、今回、全員協議会がありました。その資料の中で、屋内遊戯施設を空き家、空き店舗といった既存施設を活用して模索するとしていますが、子育て支援センターと屋内遊戯場施設は、一体と考えていいのか。市内の既存施設、空き家・空き店舗等の活用とありますが、市の施設では駄目なんでしょうか。例えば今井小学校の体育館とか、旧木浦小学校、旧浦本小学校、また、能生のマリンホールなど、こちらを活用するわけにいかないでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

まず、前段の屋内遊戯施設と支援センターと一体、一緒かというところにつきましては、基本的には、これまで屋内遊戯施設が必要であるという部分の認識で、さらに利便性向上という意味での支援センターの移設というところで、併せて考えてきておりましたので、ある意味一体的ではあるんですが、そういった空き店舗とか、そういった既存施設の状況によりまして、そういったものは一緒にできるかどうかというところは、今後、検討していくことになると思っております。

また、市の施設ということで、今ほどご提案いただいた部分もございますけれども、例えば旧今井小学校の体育館につきましては、耐震化がなされておられませんので、今の状態では使えないといったところもありますし、マリンホールとかも、別の文化的な施設として今現在利用されていますので、なかなかすぐには難しいところはあると思っております。学校施設とかは、空き校舎の利活用というのもしっかりと考えていかなければならない部分もあるかと思っておりますので、そういった部分は、今回の検討の中にも含めていけるのではないかなというふうに思っているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

次に、遊戯施設、早期の実現を目指すとありますが、こちらのほうは、時間的にこの冬までには計画できるようなものでしょうか。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

別の利活用案という、子育て、屋内遊戯施設の移設先でというところでの計画ということでございますけれども、さすがに既存施設の利用ということにあっても、そのまま使える施設というのはなかなかないというふうに思っております。その施設を決めて、一定程度の改修の必要性等も考慮しながら進めていかなければいけないと思っておりますので、なかなかこの12月までというところは、難しいのではないかなというふうに今捉えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

これで教育の最後になりますけれども、秋以降にタウンミーティングを実施して、12月末で国の計画変更を申請するスケジュールになっております。このスケジュールを出す中で、この代替案を出せるのか。今現在、代替案ない中で、12月まで代替案を出せるのかどうか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えをいたします。

代替案ということで、今現在まだお示しはできませんけれども、検討はさせていただいているところでございます。今後、代替案のほうが決まりましたら、議会のほうにもお示しをし、また、ご説明しておりますような市長との懇談会等の中でもご説明をする中で、12月までには国の計画変更が申請できるような形で取組を進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

私も建設産業常任委員会で4年間やらせてもらって、この子育て支援施設に関してやってきましたが、本当に残念というふうに思っております。ぜひ今後、皆さんに納得してもらうように説明のほう、よろしくお願ひしたいというふうに思っております。

次、（3）の1番の一次産業の農業ですね。

農家、消費者は、価格の安定を望みます。お互い納得いった価格で、この価格を国が保障すべきだというふうに思っております。農家に利益が残る形で進まないと、ますますこの耕作放棄地が増え、それだけでなく県内では糸魚川だけが作付面積が減っている状況で、兼業農家の多くが、機械設備も投資にかなり金額になっております。例えばトラクター、田植機、コンバイン、今現在ですと1台当たり400万から、高いので700万ぐらい、1台につき車が買えるぐらいな農機具になっております。これは、大規模化に方向転換してから大型化という形になっております。そのためにJAに頼りざるを得ないというふうに中小の農家さんが考えております。かなりハードルが高いですので、米政策を市長はどのように考えているか。価格の面、また、この農業の土地活用に関して考えれば、お伺ひしたいというふうに思っています。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

米農家の減少は、将来的には今以上のさらなる米不足と米の価格の高騰が懸念されます。国の米

政策につきましては、農家が将来にわたりまして、米の生産活動に意欲が持てるとともに消費者からも納得が得られる販売価格を維持しながら、農業の担い手の確保につながる政策を行うことが必要ではないかというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

この米価格、このまま維持できるように願うところですが、こちらも消費者もいる関係で、政府に期待したいというふうに思っております。

次に、2の高齢者、子育て世帯の件ですが、今現在、安い米が出回っております。備蓄米の出荷で、都市部では販売が、既に売り切れていて、糸魚川市にはなかなか入荷してきておりません。ネット販売でも売切れの状態ですし、東京、大阪などにお客が並んでいる姿をテレビでよく見ますが、地域間格差をなくしてもらうようにしなければならぬと思いますし、糸魚川の大手スーパー、また、同じくC G Cの加盟企業は、来週中にでも備蓄米の販売がスタートするというふうに聞いております。今日は、上越市の北城で販売しているというふうに聞いております。

そちらのスーパーの一方、J Aなどに働きかけて、この備蓄米が入荷できないか、J Aの元であるところが仕入れているわけですから、J Aが販売できないか、この食彩館でも週2回ほどしか販売しておらないので、糸魚川市民に対して30キロの玄米でもいいですので、市内に販売できないか伺いたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今ほど議員のほうからお話ございましたように、上越地域のスーパーでも備蓄米のほうが出てきております。

ただ、えちご上越農業協同組合につきましては、報道にもございましたように、2024年米、昨年のお米ですけども、自由に販売できる在庫は、今のところ抱えていないというような状況でございます。

備蓄米につきましても、まだ全農のほうで購入したという実績がありますが、まだこちらのほうまで入ってきていないというような状況でございます。国の備蓄米の処分ということにつきましては、連日報道されておりますが、日進月歩のような状況で動いておりますので、今後も、備蓄米の状況というのは関係機関と協議しながら、動向には注意してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

最後の質問になりますが、子育て世帯、また高齢者に関しまして、他市ではお米券やクーポン券、ガス・水道基本料金3か月徴収しないなど、物価高対策を実施していますが、糸魚川市では物価対策は考えられないか伺いたいと思います。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどご提言の当市独自での物価高騰対策事業につきましては、今の現状では行う予定はございません。

しかし、国でも7月から、電気・ガス料金負担軽減策など、物価対策について事業の実施や検討を進めておりますので、国の動向を注視するとともに、今現在、実際に独自に対策事業を行っている自治体について、研究してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、利根川議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

〈午後3時18分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員